



# 施設アセスメントシート

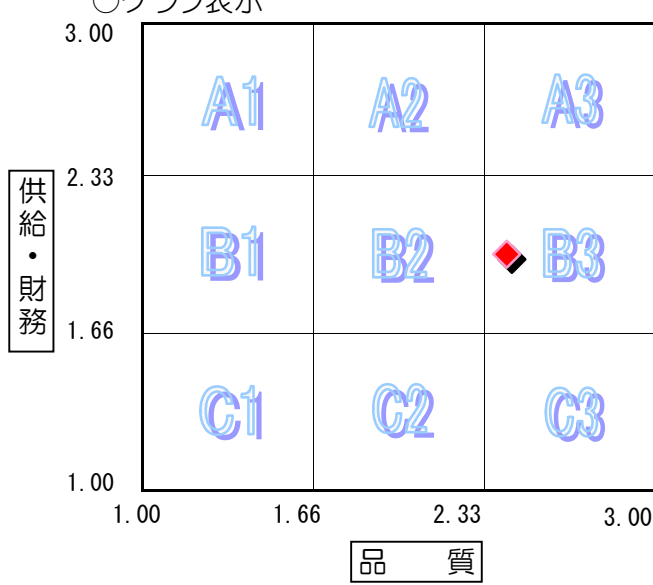
基本情報	施設番号	215113012002	施設名称	浜松学園		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	浜松学園		
	用途	福祉施設		設置年	1996	
	施設目的	知的障害者のうち、一般就労及び自立した生活を目指す者を入所させ、必要な生活指導及び作業訓練を行い、知的障害者の自立した生活の実現を支援する。				
	敷地面積	23,328.67 m <sup>2</sup>	延床面積	3,681.36 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	416,883 千円	建物台帳価格	682,683 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス60分 徒歩25分				

◆ 第1段階 B3    品質 2.51点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

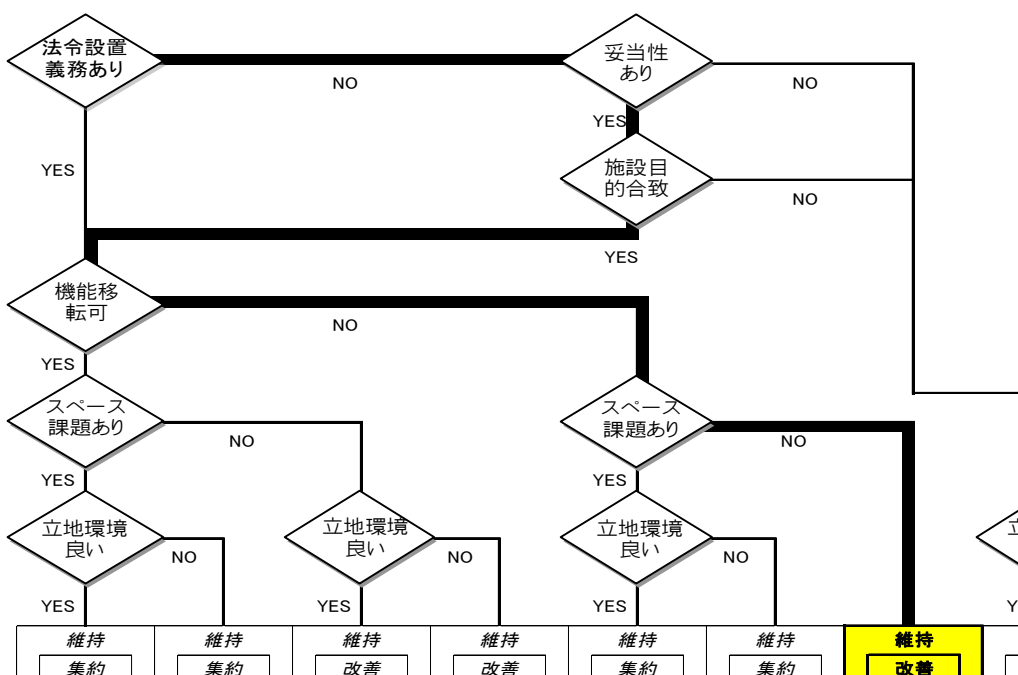
品質	建築後経過年数	20.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1996.0年 2.00点
		外壁	1996.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1996.0年 2.00点
		受変電設備	1996.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.29点
品質	エネルギー/面積	1.01GJ (50.59)	2.00点
供給	入居率	73.3%	3.00点
財務	コスト/人	1,016,613円 (59.99)	1.00点
財務	コスト/面積	7,180円 (50.24)	2.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,153	百万円	維持管理費 B(※2)	108	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	1,261	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	212	百万円	維持管理費 (※3)	54	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	266	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	212	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,120	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,814	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成24年度の静岡県行財政改革推進委員会において、出先機関の見直しの一環として、施設の将来的なあり方を検討し、運営形態の見直しを行うべきという意見が出されたことを踏まえ、浜松学園のあり方の検討を進めているところである。
現在の利用状況	定員60人に対して平成27年度は44人が入所し、中学校特別支援学級又は特別支援学校出身生が大半を占める。社会的自立に向けた訓練及び就労に向けた支援を行う県の直営施設としての役割を果たしている。
これまでの保全の状況	平成8年の設置以来、大規模な改修工事は行われていないが、施設の劣化状況に応じて小規模な修繕工事等で適切に対処しているため、施設管理状況は良好に維持されている。平成24年度の劣化診断においてC判定を受けた箇所については、修繕済。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	第2段階の結果のとおり改善・維持とするのが妥当であるが、知的障害者の自立を支援する施設として行政サービスの一層の向上を目指し、将来的なあり方を検討している。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215300012001	施設名称	婦人保護施設清流荘		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	こども家庭課		
	用途	福祉施設	設置年	2006		
	施設目的	【要入力】				内部
	敷地面積	1,926.15 m <sup>2</sup>	延床面積	1,396.24 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	144,998 千円	建物台帳価格	157,393 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

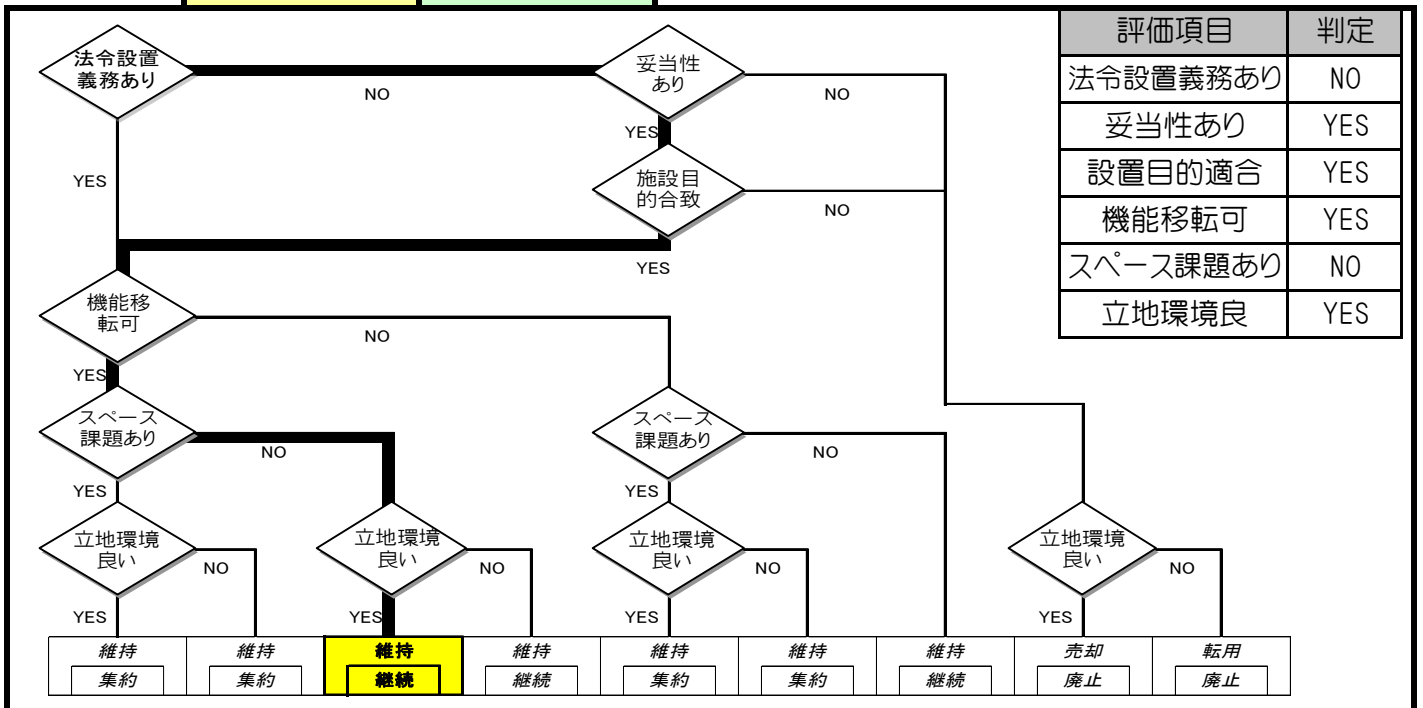
◆ 第1段階 A3    品質 3.00点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	10.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2006.0年 3.00点
		外壁	2006.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.55GJ (55.25)	3.00点
供給	入居率	200.0%	3.00点
財務	コスト/人	489,964円 (50.38)	2.00点
財務	コスト/面積	3,860円 (45.49)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	203	百万円	維持管理費 B(※2)	26	百万円
	使用年数 A(※1)	10.0	年	小計	229	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	80	百万円	維持管理費 (※3)	26	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	106	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	80	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	425	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	688	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平成27年度における入所者数は本人9人、同伴児8人。延べ日数は本人611日、同伴児165日
これまでの保全の状況	平成26年度実施の劣化診断における検査はおおむね良好であった。建設後9年が経過したところであり、大規模修繕が必要な箇所は無い。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	要保護女子及び配偶者からの暴力の被害者である女性を中長期的に収容保護し、自立までの間生活指導及び職業指導を行うことが必要なため、継続・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足	施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。
----	--------------------------------------



# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215300013004	施設名称	川奈臨海学園		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	こども家庭課		
	用途	福祉施設	設置年	1972		
	施設目的	家庭環境上、養護を必要とする児童が入所する施設				内部
	敷地面積	9,906.04 m <sup>2</sup>	延床面積	2,647.71 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	220,990 千円	建物台帳価格	40,245 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A1    品質 1.31点    供給・財務 2.50点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	44.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1972.0年 1.00点
		外壁	1972.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.80GJ (52.66)	2.00点
供給	入居率	84.4%	3.00点
財務	コスト/人	- -	-
財務	コスト/面積	4,861円 (46.92)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	153 百万円	維持管理費 B(※2)	0 百万円
	使用年数 A(※1)	44.0 年	小計	153 百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	153 百万円	維持管理費 (※3)	0 百万円
	大規模改修費	653 百万円	建替え経費	0 百万円
	解体費	0 百万円	小計	806 百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	153 百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	806 百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,304 百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	施設の老朽化と小規模化等への対応のため、財産管理者である県と施設運営者である静岡県済生会において施設改築について協議している。
現在の利用状況	平成27年度における平均施設入所率82%
これまでの保全の状況	平成26年度 外壁安全対策工事2,484千円 収容棟男女居室間仕切り戸取替工事399千円 平成27年度 収容棟玄関建具工事1,620千円
その他	施設建造物が築43年経過して老朽化しており、入所児童の安全の確保と国及び県が推進する家庭的養護(養育単位の小規模化と施設機能の地域分散化)を図るため、建替えが検討されている。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	社会的養護の需要量は今後も横ばいで推移すると見込まれており、さらに熱海・賀茂圏域で唯一の児童養護施設であることから必要な施設である。施設の老朽化とともに家庭的養護を推進するため施設の小規模化等を図る必要があるため、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215300013005	施設名称	児童サテライトホーム		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	こども家庭課		
	用途	福祉施設		設置年	1995	
	施設目的	より家庭的な環境の中で親元で暮らすことができない児童を養育することで、子どもの社会的自立を目的としている地域小規模児童養護施設				内部
	敷地面積	318.83 m <sup>2</sup>		延床面積	240.18 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	11,861 千円	
	用途地域	-		路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A2    品質 2.00点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	21.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1995.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	入居率	83.3%	3.00点
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示

品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	94	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	21.0	年	小計	94	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	14	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	14	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	14	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	73	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	118	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	地域小規模児童養護施設として親元で暮らすことができない子どもが生活している。
これまでの保全の状況	本建物は、社会福祉法人に無償貸付けを行っており、維持保全修繕にかかる経費については、貸付先である社会福祉法人の負担としている。
その他	本建物は平成12年にNEDOから無償譲渡され、その後、県有施設として有効活用するために、平成16年度から地域小規模児童養護施設として社会福祉法人に無償貸付けを行っている。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	継続。親元で暮らすことができない子どもが生活を送る場所であり、今後も社会的養護の受け皿として継続する必要がある。今後も第2段階の結果のとおり、継続・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	親元で暮らすことができない子どもは地域小規模児童養護施設などのより家庭的環境で養育すること求められている。(改正児童福祉法第3条の2等)

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215400013008	施設名称	総合社会福祉施設あしたか太陽の丘		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	障害者政策課		
	用途	福祉施設	設置年	1979		
	施設目的	障害者の能力を引出し、生存の可能性を追求する機能を備える。				内部
	敷地面積	99,172.00 m <sup>2</sup>	延床面積	6,288.20 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	3,347,055 千円	建物台帳価格	582,304 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:JR沼津駅から バス30分				

◆第1段階 A2    品質 2.22点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	37.1年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1980.7年 1.13点
		外壁	2006.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2015.0年 3.00点
		受変電設備	2000.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	入居率	106.3%	3.00点
財務	コスト/人	602,399円 (52.43)	2.00点
財務	コスト/面積	2,587円 (43.66)	3.00点

○グラフ表示

品質

◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,320	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	37.1	年	小計	1,320	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	362	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	1,551	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,913	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	362	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,913	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,098	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	昭和52年に県の主導のもとに法人設立、施設整備が行われた。当法人は、総合的な社会福祉施設として、知的・身体障害者の自立した生活を支援する施設を運営している。障害者施設は法人所有、管理棟等の共通施設は県所有となっている。
現在の利用状況	あしたか太陽の丘のうち、管理棟、体育館、サービス棟等が県有施設部分であり、適切に利用されている。
これまでの保全の状況	管理棟等の県有施設部分は平成18年度に耐震補強工事を行った他、中期維持保全計画に基づいて計画的な保全を図っているが、昭和52年の建築物であるため、老朽化が進行している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては法人の障害者施設運営には管理棟等の県有施設部分は不可欠であり、施設面においては築後約40年が経ち老朽化が深刻な状態であるため、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215400013013	施設名称	静岡医療福祉センター(福祉エリア)		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	障害福祉課		
	用途	福祉施設		設置年	1985	
	施設目的	医療型障害児入所施設				内部
	敷地面積	5,409.55 m <sup>2</sup>	延床面積	9,116.70 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	850,072 千円	建物台帳価格	1,259,914 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:静岡駅から バス10分				

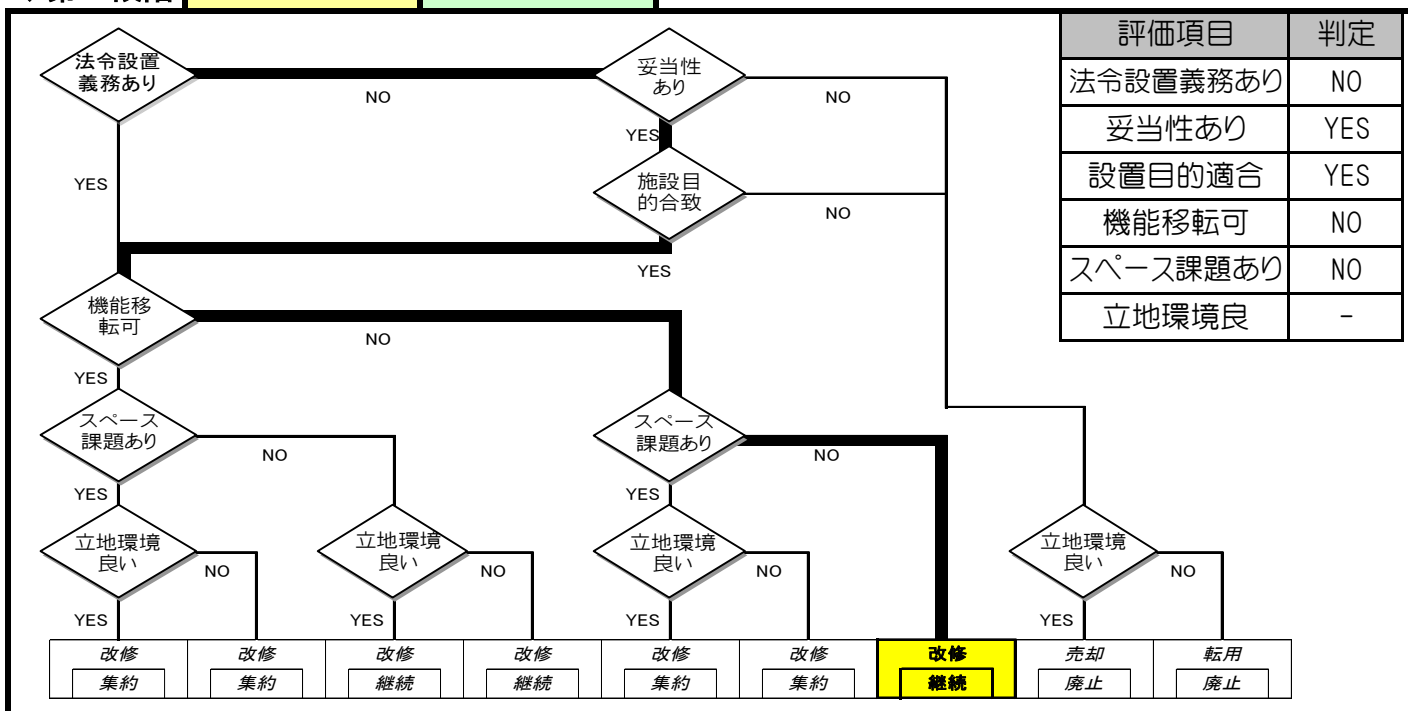
◆第1段階 A2    品質 2.11点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	31.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1985.0年 1.00点
		外壁	2013.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1985.0年 1.00点
		受変電設備	2015.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	入居率	85.0%	3.00点
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示

◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続





### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,214	百万円	維持管理費 B(※2)	2	百万円
	使用年数 A(※1)	31.0	年	小計	2,216	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	525	百万円	維持管理費 (※3)	1	百万円
	大規模改修費	2,248	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	2,774	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	525	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,774	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	4,491	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	障害児入所施設として入所者の生活の場であり、日中は外来患者や相談者の来院も頻繁に発生する。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度に劣化診断を実施した。平成28年度、電気設備の高圧引込ケーブルとディーゼル発電機の修繕が庁舎等危険防止緊急補修工事の対象となっている。</li> <li>平成25年度、外壁等補修工事を実施している。工事費約2,900万円。</li> </ul>
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設)として、その運用面は継続する必要がある一方で、施設面においては築30年を越えており、必要に応じて改修等の手当てをする必要があることから、第2段階のとおり継続・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

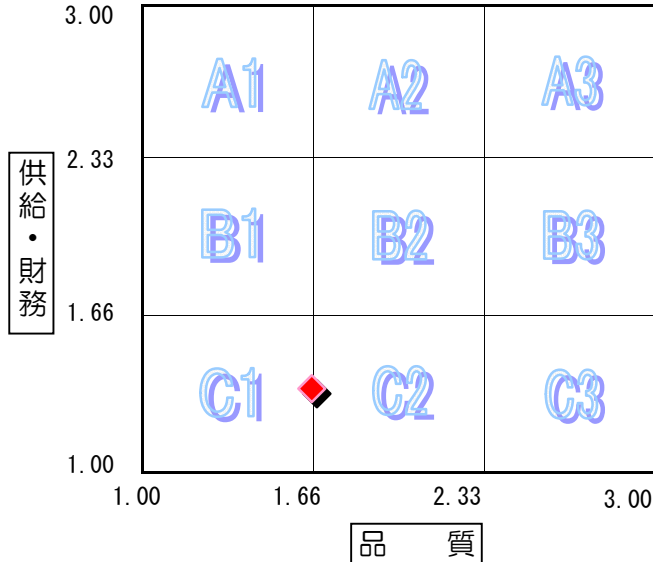
基本情報	施設番号	217105011001	施設名称	動物管理指導センター	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	動物管理指導センター	
	用途	庁舎等	設置年	1975	
	施設目的	狂犬病予防法による犬の抑留及び処分、動物愛護思想の普及啓発、犬猫の譲渡、動物由来感染症の調査研究			
	敷地面積	14,909.11 m <sup>2</sup>	延床面積	826.56 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	178,675 千円	建物台帳価格	38,341 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス40分 徒歩25分			

◆ 第1段階 C2    品質 1.70点    供給・財務 1.33点

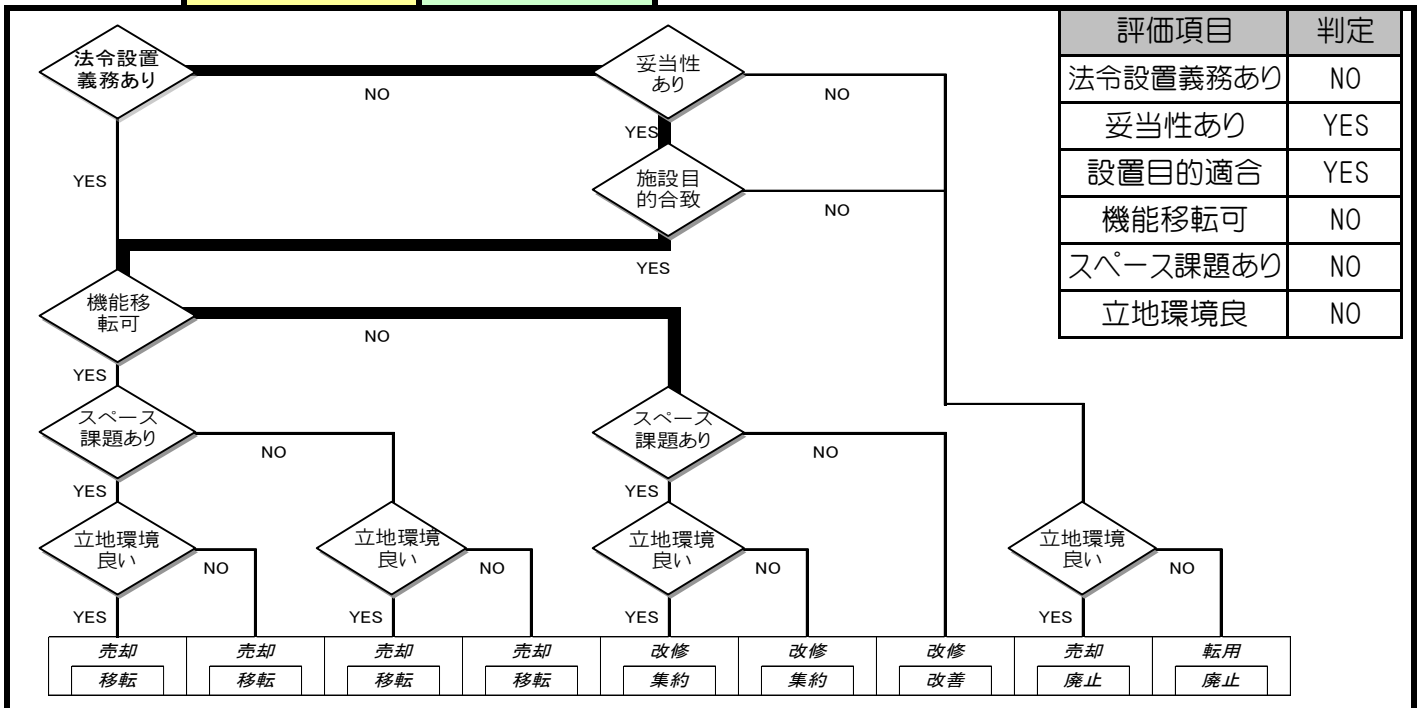
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	41.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1997.0年	2.00点
		外壁 1995.0年	1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2014.0年	3.00点
		受変電設備 2013.0年	3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.13GJ (33.63)	1.00点
供給	面積/人数	8.89m <sup>2</sup> (41.78)	2.00点
財務	コスト/人	3,108,805円 (98.15)	1.00点
財務	コスト/面積	33,850円 (88.43)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	83	百万円	維持管理費 B(※2)	69	百万円
	使用年数 A(※1)	41.0	年	小計	152	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	48	百万円	維持管理費 (※3)	17	百万円
	大規模改修費	191	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	256	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	48	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	239	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	387	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	犬の抑留及び犬猫の処分頭数は、減少傾向にあるが、殺処分は定期的に行っている。一方、動物愛護思想の普及啓発活動回数及び犬猫の譲渡推進による譲渡頭数は、増加傾向にある。そのため、飼養管理を必要とする犬猫の頭数、日数は増加傾向にある。 また、業務の特殊性(迷惑施設)から山中に広大な敷地を設け、周辺への影響を最小限とすることを最優先課題に設置された経緯があり、代替地への移転も近隣住民の反対等が予想され困難である。また、そのほとんどは傾斜地であり(整地するには多大な費用を要する)、敷地面積が広大なことをもってのみ「スペース課題あり」とするのは妥当でない。
これまでの保全の状況	屋上露出シートの一部破断、高圧受電盤及び低圧配電盤並びに揚水ポンプの期待耐用年数の大幅な超過による器具等の劣化、単独処理浄化槽(コンクリート部)の大きな亀裂、動物処分機械の十数か所の不具合並びに門の地盤沈下による傾き(全て劣化診断C判定。C判定箇所その他多数)。H26に焼却炉煙突改修工事(約40年経過)約1,700万円。H28に建物屋根の昇降ハッチ、タラップの修繕に約29万円。
その他	当センターは県管轄唯一の犬猫処分施設であるとともに、譲渡用の犬猫の飼育管理をする施設として、必要不可欠な施設である。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	当センターは県管轄唯一の犬猫処分施設であり、他に類似の施設はなく、また、他に同センターの業務を引き受けられる施設はない。よって、第2段階の結果のとおり、改善・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	狂犬病予防法に基づく殺処分、動物愛護法に基づく人と動物の共生する社会の実現



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設 ※広大な敷地については施設の特性により必要であるため、スペースの課題あり「NO」とする。
----	--

# 施設アセスメントシート

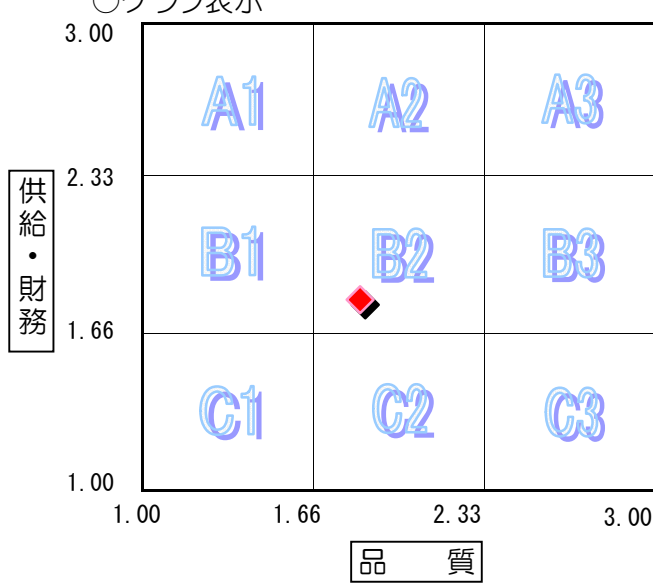
基本情報	施設番号	23111011001	施設名称	沼津工業技術支援センター	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	沼津工業技術支援センター	
	用途	研究施設	設置年	1990	
	施設目的	工業技術の向上とその成果の普及を図り、もって産業の振興に寄与する			内部
	敷地面積	14,573.46 m <sup>2</sup>	延床面積	5,031.93 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	660,365 千円	建物台帳価格	1,173,248 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-			

◆ 第1段階 B2    品質 1.90点    供給・財務 1.80点

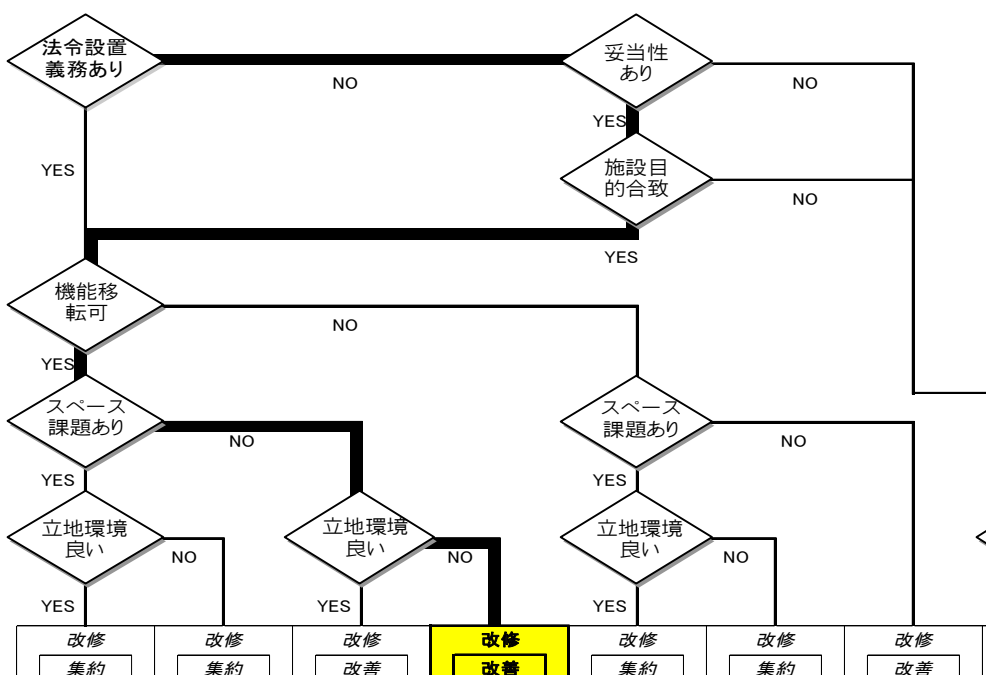
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1990.0年 1.00点
		外壁	1990.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2015.0年 2.61点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.76GJ (43.05)	1.00点
供給	面積/人数	110.28m <sup>2</sup> (55.74)	2.00点
財務	コスト/人	2,979,776円 (95.80)	1.00点
財務	コスト/面積	10,659円 (55.22)	1.00点
財務	収入/人	781円 (62.97)	3.00点
財務	支出/人	1,389円 (52.37)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,865	百万円	維持管理費 B(※2)	801	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	2,666	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	290	百万円	維持管理費 (※3)	308	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	598	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	290	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,192	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,581	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	依頼試験の引き受け等、研究機関として常時使用している。
これまでの保全の状況	施設の老朽化により、大規模な修繕が必要となっている。特に水道管が破裂するなどライフラインにかかわる修繕が必須となっている。また、雨漏りについて対処する必要性がある。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	「改善」「改修」⇒「継続」「改修」 酒酵母の研究や依頼試験を受ける東部唯一の公の施設であり、地元の企業を下支えする重要な役割を担っている。東部には、機械工業を主業務とする企業が多くニーズもある。近隣の沼津高専・がんセンターなど専門機関と連携して技術革新を進める重要な拠点である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

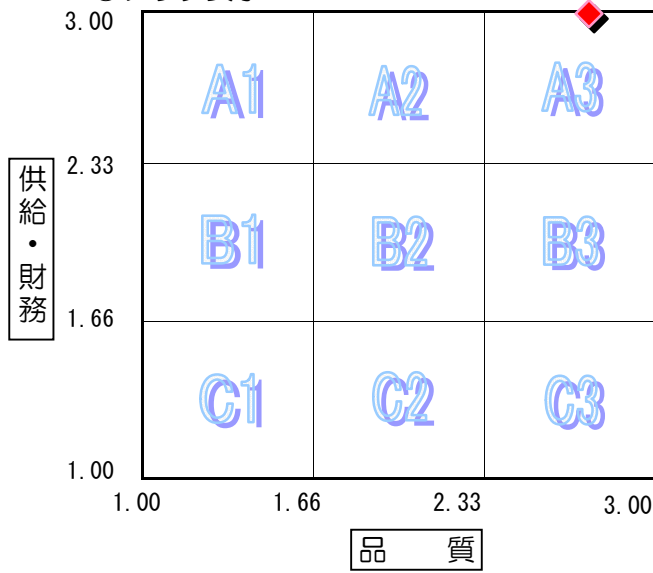
基本情報	施設番号	231111012002	施設名称	沼津インキュベートセンター		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	沼津工業技術支援センター		
	用途	研究施設	設置年	1997		
	施設目的	優れた技術開発力を持つ創業者の育成を通じて地域経済の発展を図ることを目的とする				内部 
	敷地面積	4,565.36 m <sup>2</sup>	延床面積	881.65 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	348,272 千円	建物台帳価格	92,176 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A3    品質 2.86点    供給・財務 3.00点

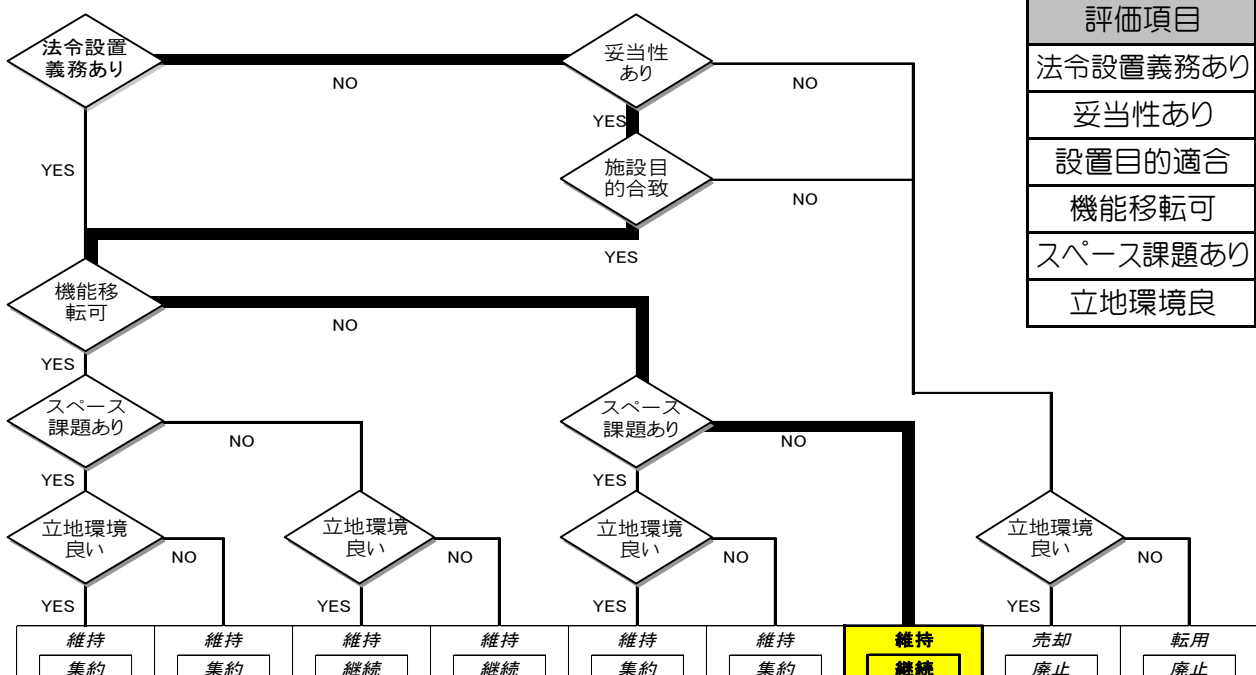
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	19.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
品質		外壁	1997.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
品質		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.04GJ (60.34)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	881円 (41.22)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	-



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	196	百万円	維持管理費 B(※2)	12	百万円
	使用年数 A(※1)	19.0	年	小計	208	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	51	百万円	維持管理費 (※3)	7	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	57	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	51	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	384	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	627	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	入居率70%
これまでの保全の状況	大規模修繕なし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設の建築品質は高く、機能も十分に果たしていることから継続が相当と考える。
上を裏付ける根拠(ある場合)	入居率の推移 H25 78.2→H26 78.1%→H27 81.8%

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。



# 施設アセスメントシート

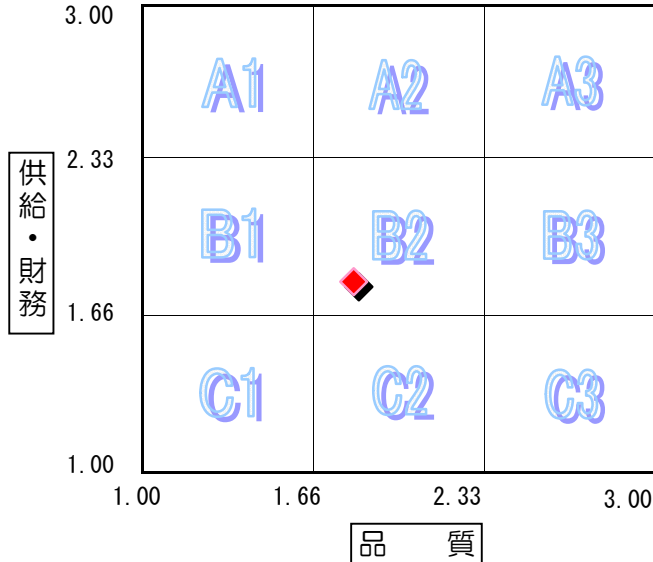
基本情報	施設番号	231113011002	施設名称	富士工業技術支援センター		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	富士工業技術支援センター		
	用途	研究施設	設置年	1991		
	施設目的	工業技術の向上とその成果の普及を図り、もって産業の振興に寄与する				
	敷地面積	17,350.55 m <sup>2</sup>	延床面積	7,759.41 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	696,501 千円	建物台帳価格	1,670,138 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR入山瀬駅から 徒歩30分				

◆ 第1段階 B2    品質 1.88点    供給・財務 1.80点

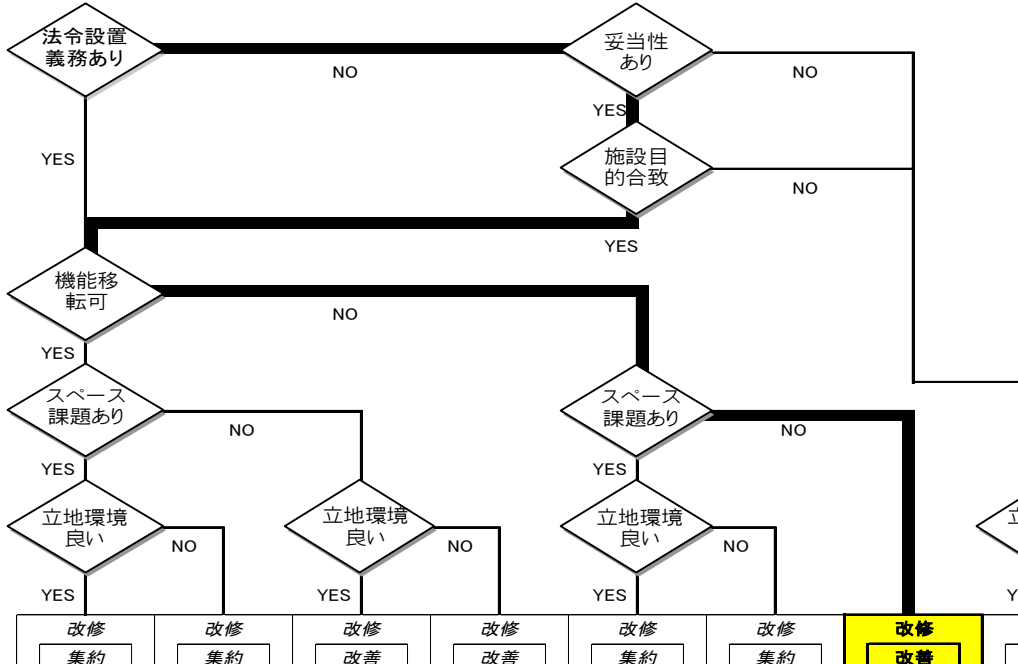
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	25.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1991.0年 1.00点
		外壁	1991.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.27GJ (47.94)	2.00点
供給	面積/人数	156.11m <sup>2</sup> (62.63)	1.00点
財務	コスト/人	3,958,986円 (113.66)	1.00点
財務	コスト/面積	9,694円 (53.84)	2.00点
財務	収入/人	573円 (55.62)	3.00点
財務	支出/人	2,595円 (48.07)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,737	百万円	維持管理費 B(※2)	793	百万円
	使用年数 A(※1)	25.0	年	小計	3,530	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	447	百万円	維持管理費 (※3)	317	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	764	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	447	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,380	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,522	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	行政用途(研究所)として常時使用。
これまでの保全の状況	開設後25年が経過し施設の老朽化がすすんでおり、大規模な修繕が必要となってきた。
その他	周辺区域の区画変更が進行中。一部土地の引渡しに関する構造物の撤去等がある。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	「改善」⇒「継続」が妥当である。 県の推進事業であるCNFの研究開発拠点。地元企業の技術支援を行うことが出来る富士・富士宮地区における唯一の公設試験場として地元産業をバックアップする重要な役割を担っている。富士地区の産業を支える重要な研究開発拠点。また、全国に4ヶ所しかない紙の試験が出来る公設試験場の1つ。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

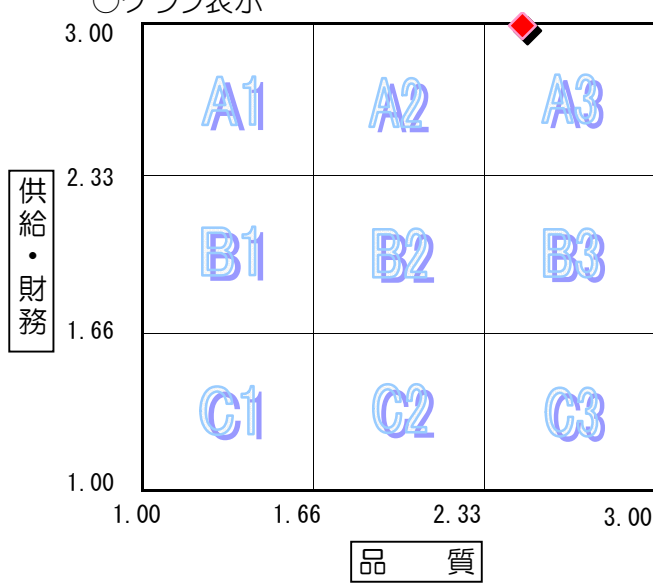
基本情報	施設番号	231113012003	施設名称	富士インキュベートセンター		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	富士工業技術支援センター		
	用途	研究施設	設置年	1998		
	施設目的	優れた技術開発力を持つ創業者の育成を通じて地域経済の発展を図ることを目的とする				内部 
	敷地面積	2,724.34 m <sup>2</sup>	延床面積	875.92 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	109,363 千円	建物台帳価格	180,142 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR入山瀬駅から 徒歩30分				

◆ 第1段階 A3    品質 2.58点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	18.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1998.0年	2.00点
		外壁 1998.0年	2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1998.0年	2.00点
		受変電設備 1998.0年	2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	398円 (40.53)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

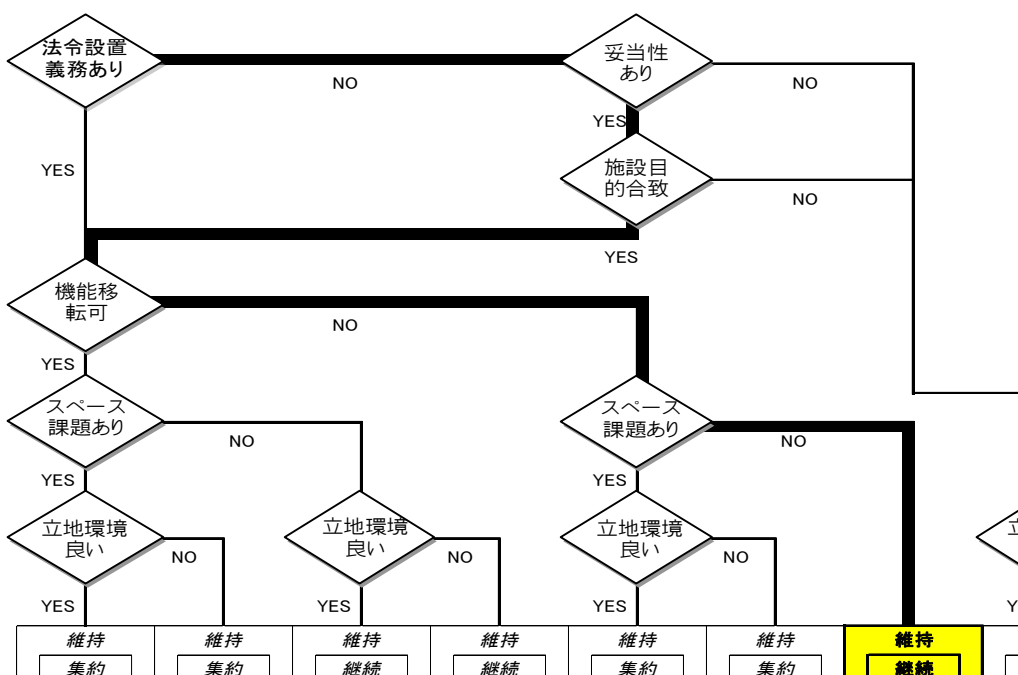
○グラフ表示



供給・財務

品質

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	353	百万円	維持管理費 B(※2)	4	百万円
	使用年数 A(※1)	18.0	年	小計	357	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	50	百万円	維持管理費 (※3)	2	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	53	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	50	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	382	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	623	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	入居率80%
これまでの保全の状況	大規模修繕なし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設の建築品質は高く、機能も十分に果たしていることから継続が相当と考える。
上を裏付ける根拠(ある場合)	H25 95.1%→H26 84.9%→H27 75.1%

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。

# 施設アセスメントシート

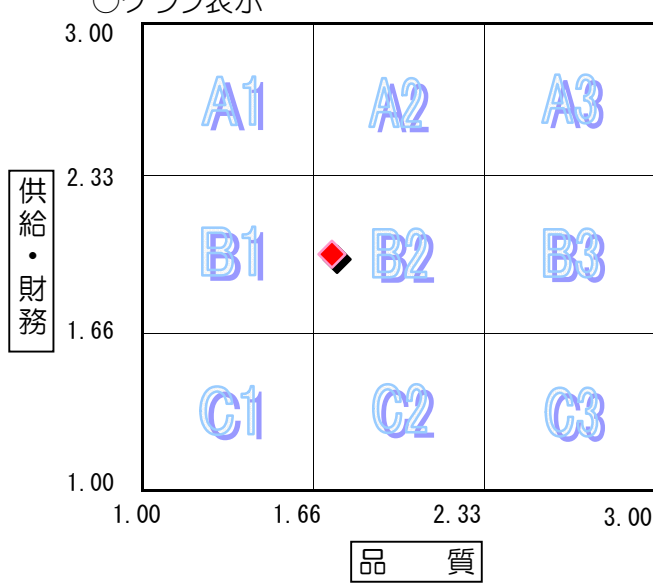
基本情報	施設番号	231115011001	施設名称	工業技術研究所		外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	工業技術研究所			
	用途	研究施設	設置年	1982			
	施設目的	県内中小企業の支援のため研究開発、依頼試験・設備使用等を行う					内部 
	敷地面積	23,157.43 m <sup>2</sup>	延床面積	12,303.86 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	1,591,114 千円	建物台帳価格	1,995,558 千円			
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: JR静岡駅から バス25分					

◆ 第1段階 **B2**      品質 1.78点      供給・財務 2.00点

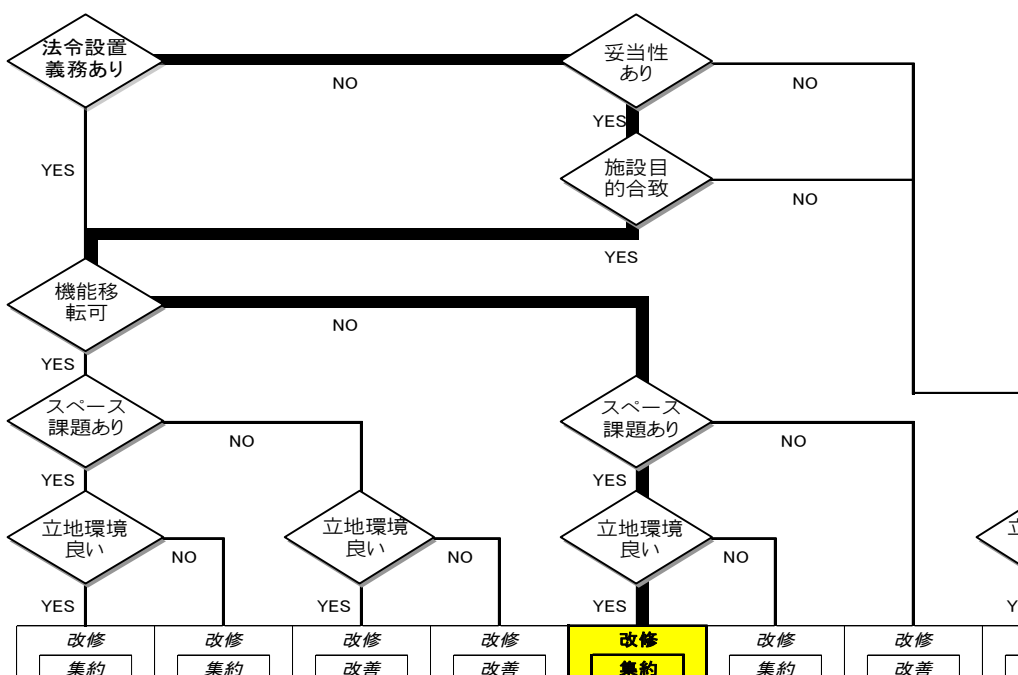
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	32.3年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1993.3年	1.72点
		外壁 1983.7年	1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1983.7年	1.00点
		受変電設備 1985.5年	1.13点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.23GJ (48.36)	2.00点
供給	面積/人数	67.76m <sup>2</sup> (49.35)	3.00点
財務	コスト/人	1,022,201円 (60.09)	1.00点
財務	コスト/面積	7,311円 (50.43)	2.00点
財務	収入/人	364円 (48.21)	2.00点
財務	支出/人	664円 (54.96)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 改修**      **運用面: 集約**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,991	百万円	維持管理費 B(※2)	1,358	百万円
	使用年数 A(※1)	32.3	年	小計	5,349	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	709	百万円	維持管理費 (※3)	421	百万円
	大規模改修費	3,842	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	4,972	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	709	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	5,360	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	8,756	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	利用は企業関係者に限られており、常に一定の利用がある。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化状況:空調設備が劣化(C判定)しており、一部は使用できない状態である。</li> <li>過去に大きな修繕改修をした履歴:中央監視装置更新工事(H18約5,300万円)、実験棟屋上防水工事(H24約2,000万円)</li> </ul>
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては今後継続的に行政サービスを提供する必要があるが、施設の老朽化が著しい。施設内の配置に検討の余地があるため、第2段階の結果のとおり、集約、改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

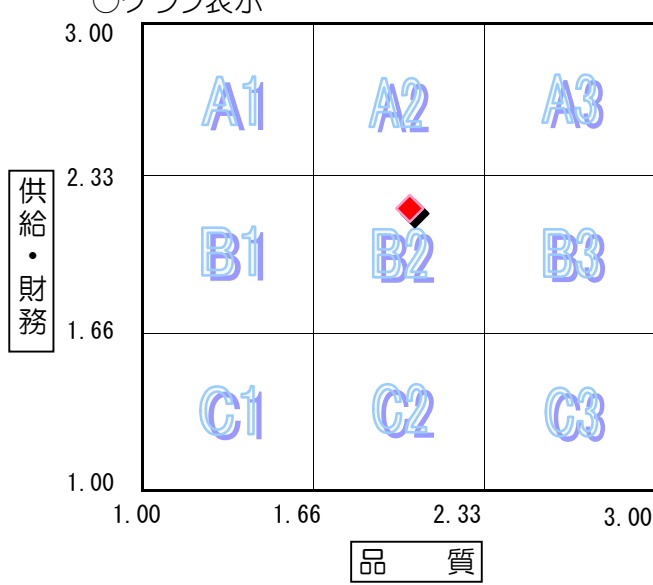
基本情報	施設番号	231117011003	施設名称	浜松工業技術支援センター		外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	浜松工業技術支援センター			
	用途	研究施設	設置年	1991			
	施設目的	工業技術の向上とその成果の普及を図り、もって産業の振興に寄与する					内部 
	敷地面積	22,737.49 m <sup>2</sup>	延床面積	9,607.97 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	555,932 千円	建物台帳価格	2,173,775 千円			
	用途地域	工業専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス50分 徒歩10分					

◆ 第1段階 B2    品質 2.11点    供給・財務 2.20点

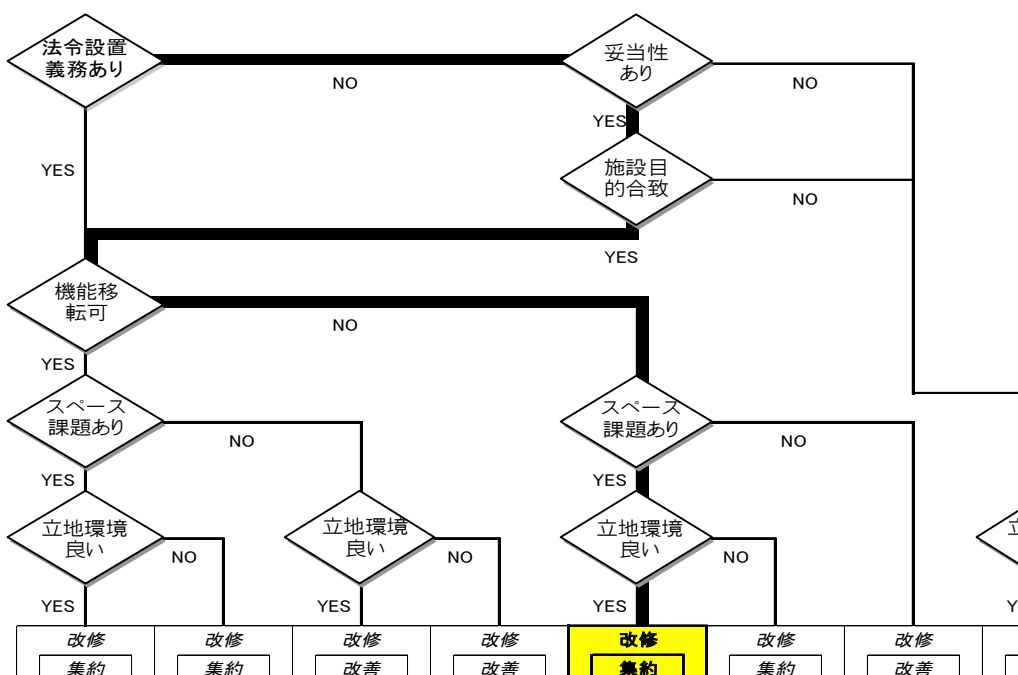
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	25.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1999.9年 2.05点
		外壁	2011.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1991.0年 1.00点
		受変電設備	2001.5年 2.05点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.26GJ (48.04)	2.00点
供給	面積/人数	83.96m <sup>2</sup> (51.78)	3.00点
財務	コスト/人	2,036,405円 (78.59)	1.00点
財務	コスト/面積	9,538円 (53.62)	2.00点
財務	収入/人	1,059円 (72.84)	3.00点
財務	支出/人	1,350円 (52.51)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES



◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,562	百万円	維持管理費 B(※2)	1,290	百万円
	使用年数 A(※1)	25.0	年	小計	4,852	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	554	百万円	維持管理費 (※3)	516	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,070	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	554	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	4,186	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	6,837	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	行政用途(研究所)として常時使用
これまでの保全の状況	必要に応じて修繕実施
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果は概ね妥当であるが、「集約」の実現性は低い
上を裏付ける根拠(ある場合)	「集約」にマッチングする施設等がない



総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。
----	--

# 施設アセスメントシート

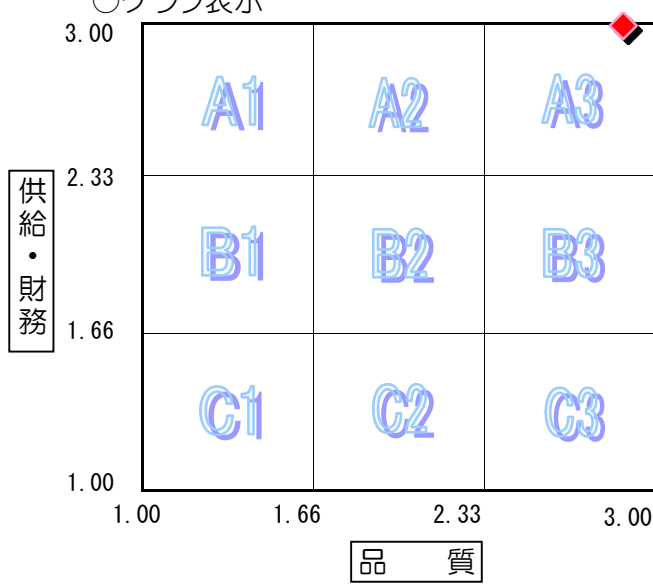
基本情報	施設番号	231117012004	施設名称	浜松インキュベートセンター		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	浜松工業技術支援センター		
	用途	研究施設		設置年	1996	
	施設目的	優れた技術開発力を持つ創業者の育成を通じて地域経済の発展を図ることを目的とする				内部 
	敷地面積	5,500.80 m <sup>2</sup>		延床面積	875.52 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	131,477 千円		建物台帳価格	159,802 千円	
	用途地域	住居地域		路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス50分 徒歩10分				

◆ 第1段階 A3    品質 3.00点    供給・財務 3.00点

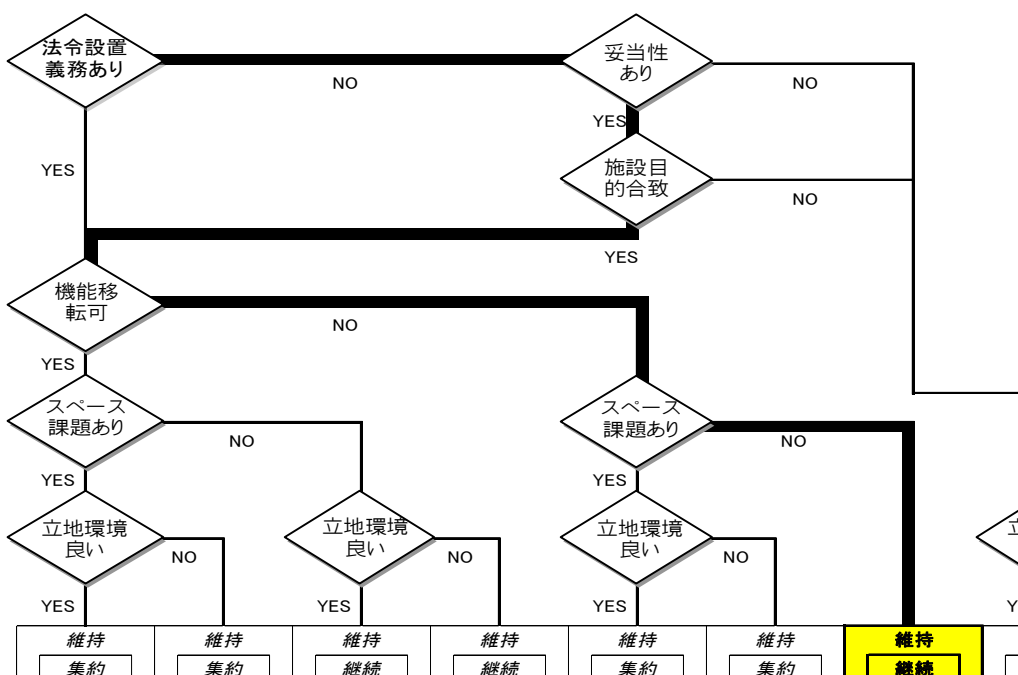
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	2009.5年
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.01GJ (60.63)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	1,182円 (41.65)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	375	百万円	維持管理費 B(※2)	16	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	391	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	50	百万円	維持管理費 (※3)	8	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	58	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	50	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	381	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	623	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	入居率90%
これまでの保全の状況	大規模修繕なし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設の建築品質は高く、機能も十分に果たしていることから継続が相当と考える。
上を裏付ける根拠(ある場合)	入居率の推移 H25 90.0%→H26 99.2%→H27 97.5%

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	231500011001	施設名称	産業経済会館		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	商工振興課			
	用途	貸館施設		設置年	1990		
	施設目的	中小企業の振興					
	敷地面積	1,274.54 m <sup>2</sup>	延床面積	8,227.06 m <sup>2</sup>			内部
	土地台帳価格	522,004 千円	建物台帳価格	1,714,553 千円			
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅からバス7分					

◆ 第1段階 A2    品質 2.10点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1990.0年 1.00点
		外壁	1990.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.0年 3.00点
		受変電設備	2010.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.95GJ (51.20)	2.00点
供給	稼働率	34.9%	2.00点
財務	コスト/人	1,068円 (41.46)	3.00点
財務	コスト/面積	6,101円 (48.70)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,725	百万円	維持管理費 B(※2)	337	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	3,062	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	474	百万円	維持管理費 (※3)	130	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	604	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	474	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,189	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,196	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議室の利用率は年により変動がある。特に夜間の利用率向上が課題。</li> <li>関係団体の入居スペースは、現在空きは生じていない。</li> </ul>
これまでの保全の状況	<p>&lt;劣化診断結果(H25)への対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C判定とされた設備については概ね対応済、または対応中である。</li> <li>B判定とされた設備の内、全熱交換器が1台故障、直流電源装置は耐用年数を超え保守点検で異常を指摘されている(予算要求が認められず、対応未定)。</li> <li>劣化診断で指摘はされていないが、雨漏りが発生しており、指定管理者により修繕したが、改善されていない。</li> </ul> <p>&lt;近年の設備工事&gt;</p> <p>H21~23 空調設備改修工事 222,600千円    H24 中央監視装置更新 50,091千円</p>
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	老朽化の生じている設備があり、計画的な改修が必要であるため、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

# 施設アセスメントシート

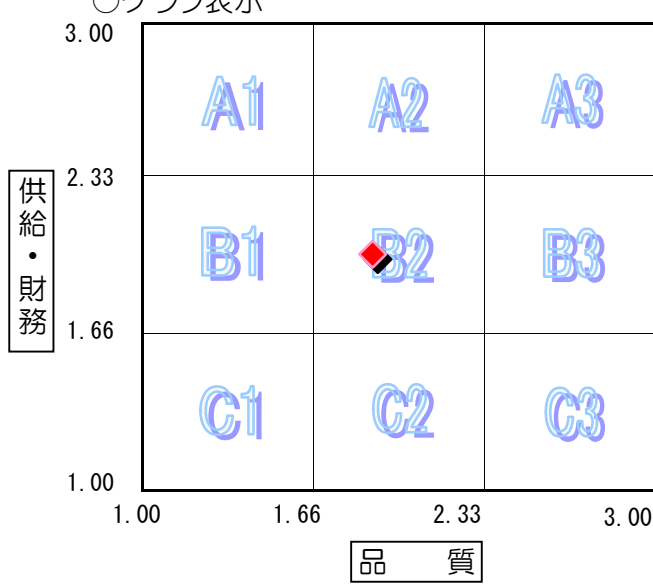
基本情報	施設番号	231600012002	施設名称	浜松内陸コンテナ基地		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	企業立地推進課		
	用途	庁舎等		設置年	1971	
	施設目的	外国貿易の振興				内部 
	敷地面積	32,921.24 m <sup>2</sup>	延床面積	11,434.73 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	1,685,473 千円	建物台帳価格	0 千円		
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR天竜川駅から タクシー15分				

◆ 第1段階 B2    品質 1.95点    供給・財務 2.00点

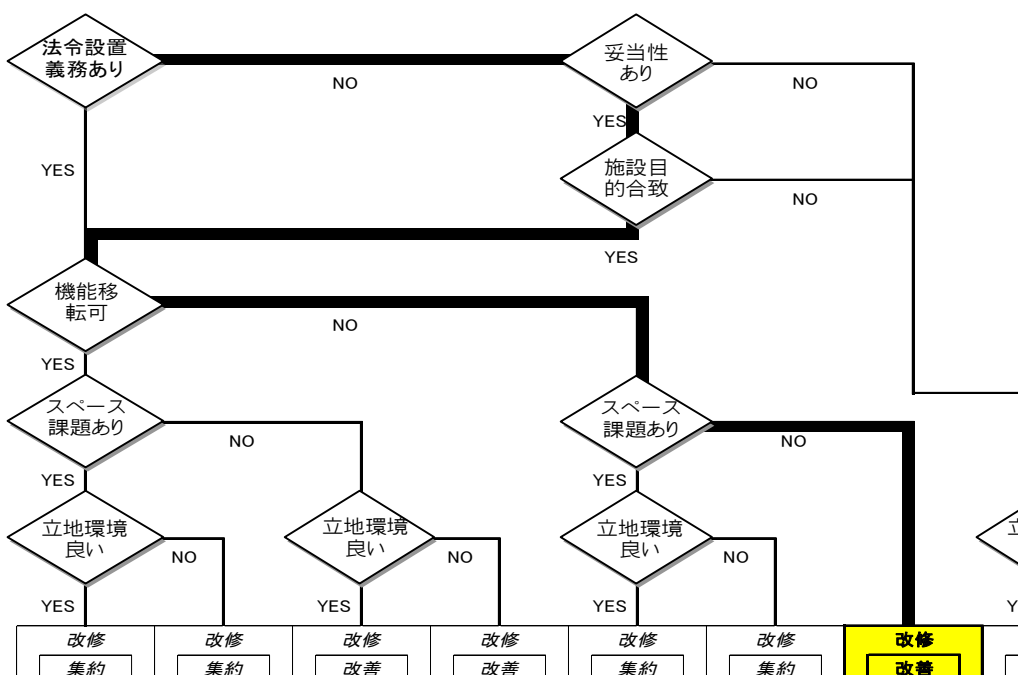
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	44.7年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2011.8年 3.00点
		外壁	2011.8年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.9年 2.53点
		受変電設備	2012.0年 2.53点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	16.97m <sup>2</sup> (60.01)	1.00点
財務	コスト/人	618,415円 (52.72)	2.00点
財務	コスト/面積	811円 (41.12)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	346	百万円	維持管理費 B(※2)	155	百万円
	使用年数 A(※1)	44.7	年	小計	501	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	659	百万円	維持管理費 (※3)	35	百万円
	大規模改修費	413	百万円	建替え経費	3,726	百万円
	解体費	232	百万円	小計	5,064	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	659	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,307	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,347	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	・港湾法に基づく清水港港湾施設である。 ・昭和46年6月に指定保税地域に指定された。
現在の利用状況	コンテナフレートステーションの利用率は100パーセントである。
これまでの保全の状況	平成23年度から平成24年度にかけて耐震補強工事を実施
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に提供する責務がある一方で施設利用の効率性を高める必要がある。施設においては、耐震工事を実施したが、建築後44年を経過しており、定期的に経過をみていく必要がある。したがって改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**



運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

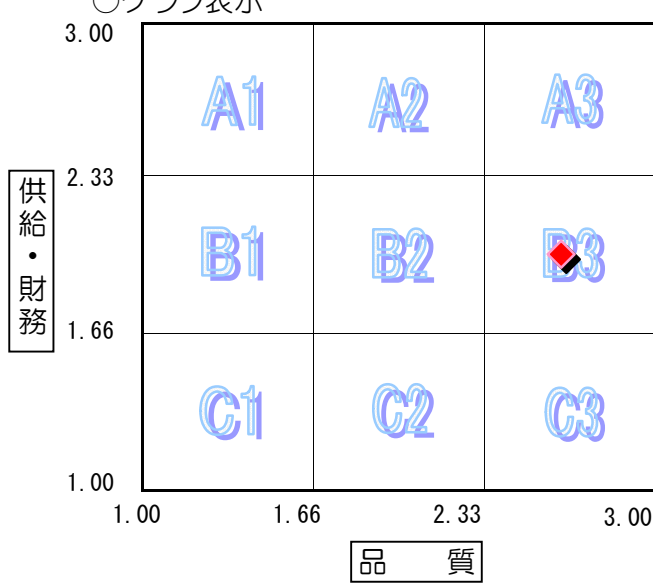
基本情報	施設番号	233101012003	施設名称	沼津技術専門校		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	沼津技術専門校		
	用途	教育施設		設置年	2007	
	施設目的	労働者の能力を開発・向上させ、職業の安定と労働者の地位向上を図る				内部 
	敷地面積	16,438.20 m <sup>2</sup>	延床面積	9,281.45 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	694,749 千円	建物台帳価格	1,678,236 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 下土狩駅から 徒歩25分 タクシー10分				

◆ 第1段階 B3    品質 2.74点    供給・財務 2.00点

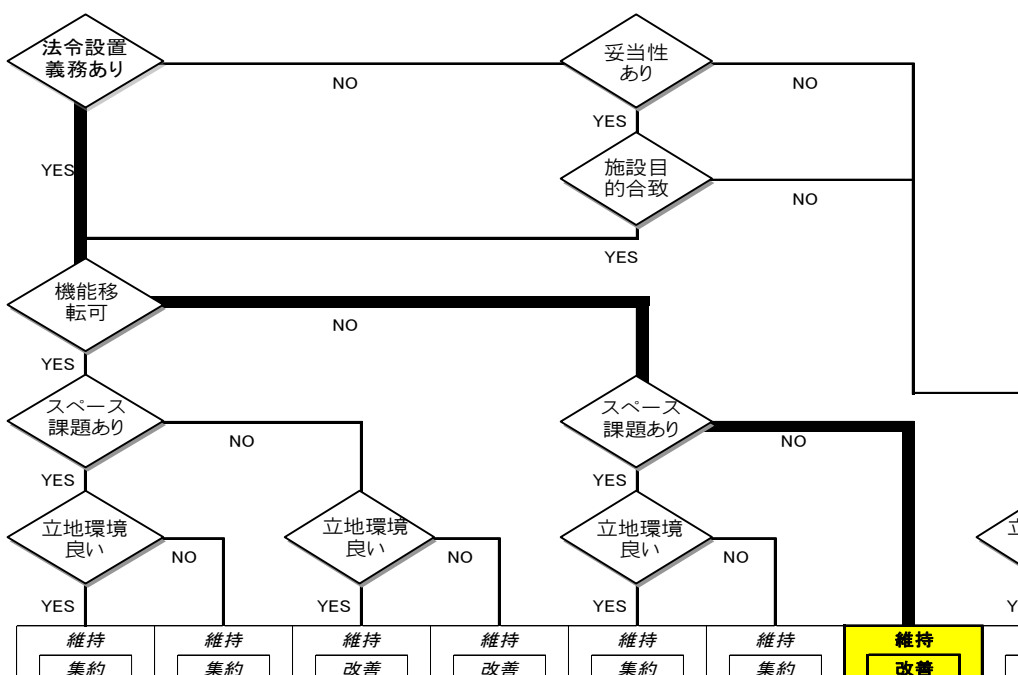
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	9.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2014.0年 3.00点
		外壁	2007.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.2年 2.77点
		受変電設備	2007.0年 0.63点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.28GJ (58.08)	3.00点
供給	面積/人数	105.47m <sup>2</sup> (51.61)	3.00点
供給	生徒充足率	73.33%	1.00点
供給	入学試験倍率	0.7倍	1.00点
財務	コスト/人	649,603円 (53.29)	2.00点
財務	コスト/面積	2,310円 (43.27)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,718	百万円	維持管理費 B(※2)	93	百万円
	使用年数 A(※1)	9.0	年	小計	1,811	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	299	百万円	維持管理費 (※3)	103	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	402	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	299	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,008	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,343	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成27年度に県内のものづくり人材の育成強化のため、技術専門校あり方検討委員会において県内3技術専門校のこれからのあり方を検討し、第10次静岡県職業能力開発計画(29～33年度)に検討内容を反映した。
現在の利用状況	平日昼間は若年者コース及び社会人コース(離転職者訓練)にて通年利用があり、夜間は社会人コース(在職者訓練)にて週の半分以上で利用あり。また、土日についても、施設開放事業等にて年間約30日の利用あり。
これまでの保全の状況	直近(24年度)劣化診断では大きな指摘はなかったが、19年度の新築から10年を迎え、外壁劣化が原因と思われる雨漏りや棟周囲ワイヤーメッシュの発錆が目立つ。毎年10件以上の小修繕を行っており、過去最大工事は26年度全棟屋根雨漏り修繕工事(約190万円)である。
その他	若年者コースの学科変更の可能性はある。あわせて、社会人コース(離転職者訓練、在職者訓練)についても地域ニーズに則した訓練内容の変更がなされることに伴い、訓練施設(実習場、機器)の改修等があり得る。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果(第1段階:B3, 第2段階:運用改善・施設維持)について、変更希望なし。今後も、施設面については計画保全で長寿命化を図り、運用面については訓練内容の充実等で改善を図っていく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	(非該当)

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状況は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設

# 施設アセスメントシート

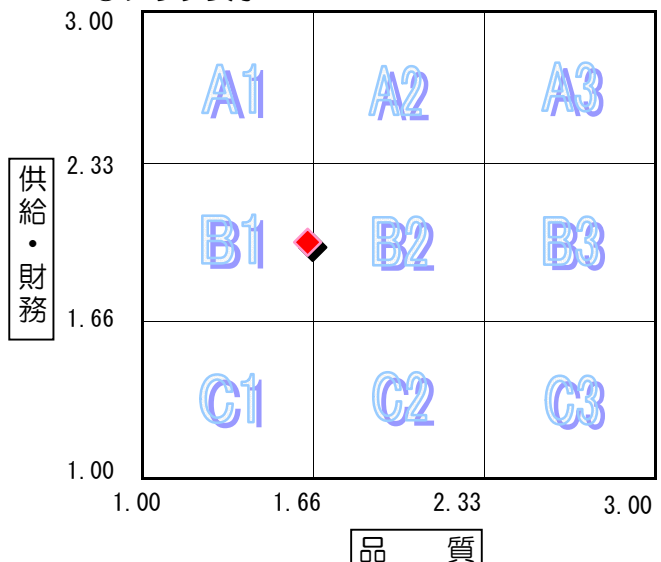
基本情報	施設番号	233103012001	施設名称	清水技術専門校		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	清水技術専門校		
	用途	教育施設		設置年	1985	
	施設目的	労働者の能力を開発・向上させ、職業の安定と労働者の地位向上を図る				内部
	敷地面積	17,473.73 m <sup>2</sup>	延床面積	8,074.41 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	1,353,041 千円	建物台帳価格	285,860 千円		
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR草薙駅から 徒歩15分 タクシー8分				

◆ 第1段階 B2    品質 1.68点    供給・財務 2.00点

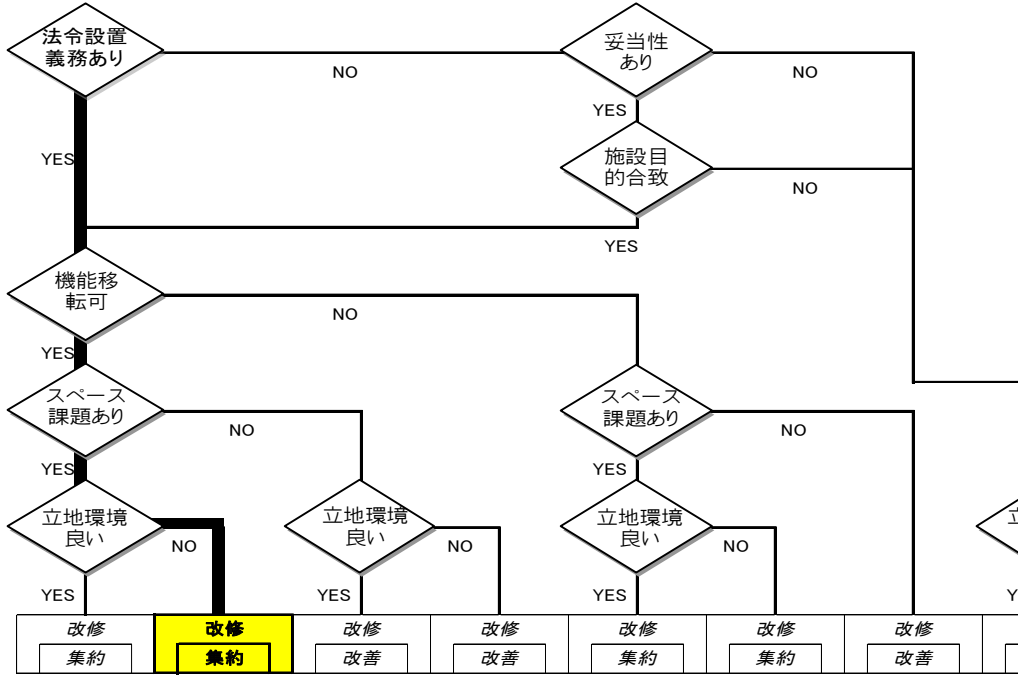
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.2年	1.61点
品質	建築劣化度	屋上防水	2002.8年 2.28点
		外壁	1993.9年 1.50点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1995.2年 1.17点
		受変電設備	1984.0年 0.11点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.36GJ (55.90)	3.00点
供給	面積/人数	141.66m <sup>2</sup> (54.57)	3.00点
供給	生徒充足率	47.50%	1.00点
供給	入学試験倍率	0.5倍	1.00点
財務	コスト/人	219,218円 (45.44)	2.00点
財務	コスト/面積	1,602円 (42.25)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	820	百万円	維持管理費 B(※2)	227	百万円
	使用年数 A(※1)	36.2	年	小計	1,047	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	260	百万円	維持管理費 (※3)	63	百万円
	大規模改修費	1,134	百万円	建替え経費	273	百万円
	解体費	19	百万円	小計	1,749	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	260	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,747	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,908	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成27年度に県内のものづくり人材の育成強化のため、技術専門校あり方検討委員会において県内3技術専門校のこれからのあり方を検討し、第10次静岡県職業能力開発計画(29～33年度)に検討内容を反映した。
現在の利用状況	平日昼間は若年者及び離転職者、障害者が職業訓練受講のために通年利用し、夜間は在職者が職業訓練受講のために週2～3日利用している。土日は施設開放事業等にてほぼ毎週活用されている。また、校内一部財産(建物)を静岡県職業能力開発協会、(一財)静岡県技能士会連合会が事務所として活用している。
これまでの保全の状況	直近の劣化診断(26年度)では18項目についてC判定を受け、建物が全体的に劣化している。特に配管類については各所で漏れや排水不具合が発生しているとの指摘を受けており、全面的に改修する必要がある。 27年度は27件(30万円以下含む)の小工事を約5,963千円で実施した。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果(第1段階:B2, 第2段階:運用集約・施設改修)について、東部・中部・西部の地域バランスから、集約は困難であり、改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	技術専門校あり方検討会報告書において、沼津技術専門校、清水技術専門校の短期大学学校化が提言された。経済産業部としては、現地での建替えを目指し、関係部局と調整中。



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設

# 施設アセスメントシート

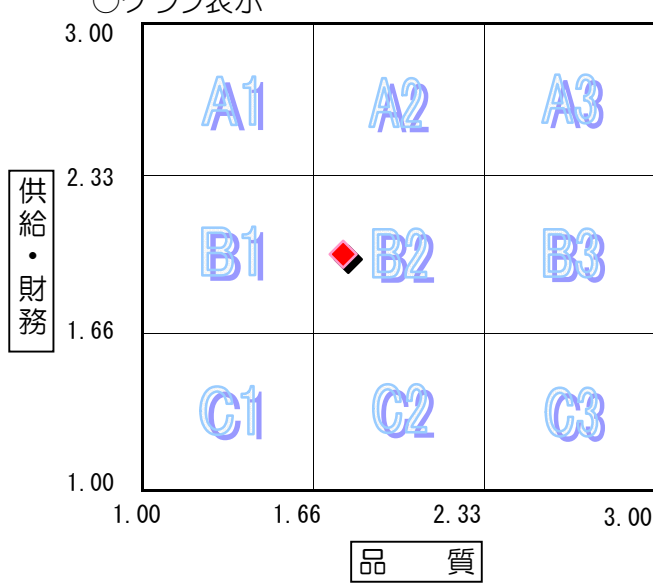
基本情報	施設番号	233105012001	施設名称	浜松技術専門校		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	浜松技術専門校		
	用途	教育施設		設置年	1994	
	施設目的	労働者の能力を開発・向上させ、職業の安定と労働者の地位向上を図る				
	敷地面積	21,195.37 m <sup>2</sup>	延床面積	10,664.84 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	1,089,931 千円	建物台帳価格	1,596,188 千円		
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:遠州鉄道 自動車学校前駅から 徒歩15分 タクシー5分				

## ◆第1段階 B2 品質 1.83点 供給・財務 2.00点

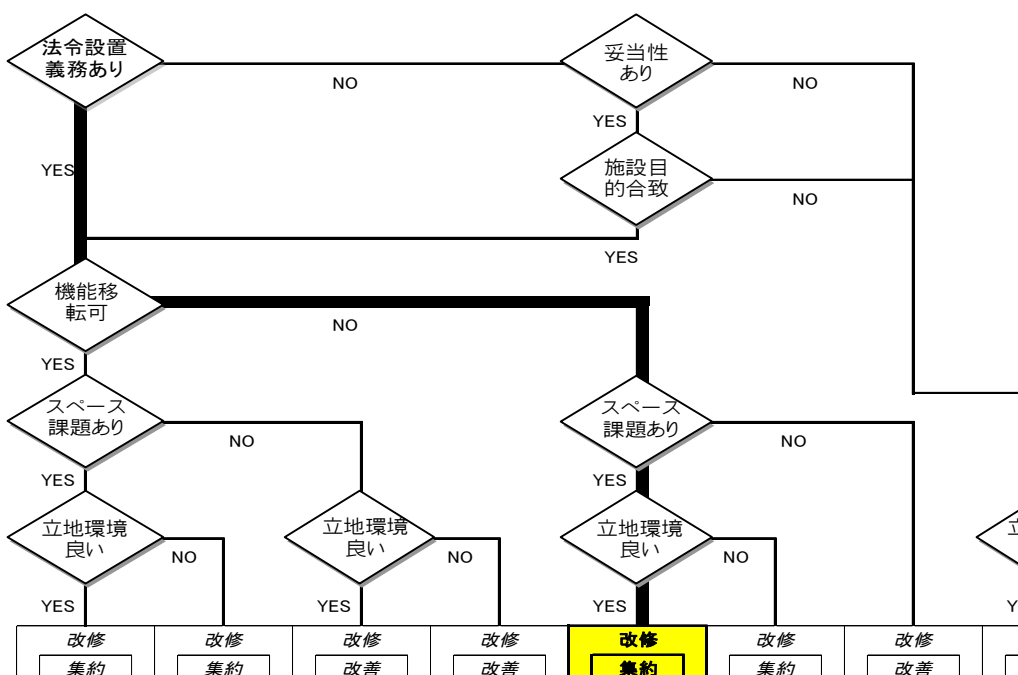
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	22.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1994.0年 1.00点
		外壁	2001.5年 1.88点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1994.0年 0.93点
		受変電設備	1994.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.19GJ (60.95)	3.00点
供給	面積/人数	74.25m <sup>2</sup> (49.06)	3.00点
供給	生徒充足率	66.52%	1.00点
供給	入学試験倍率	1.0倍	1.00点
財務	コスト/人	483,636円 (50.27)	2.00点
財務	コスト/面積	1,705円 (42.40)	3.00点

○グラフ表示



## ◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,262	百万円	維持管理費 B(※2)	258	百万円
	使用年数 A(※1)	22.0	年	小計	3,520	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	343	百万円	維持管理費 (※3)	117	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	460	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	343	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,308	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,841	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成27年度に県内のものづくり人材の育成強化のため、技術専門校あり方検討委員会において県内3技術専門校のこれからのあり方を検討し、第10次静岡県職業能力開発計画(29～33年度)に検討内容を反映した。
現在の利用状況	平日夜間ともに職業訓練を実施
これまでの保全の状況	各所で漏水がある(本館C判定6つ、西実習棟C判定4つ)ほか、空調設備においては機器不具合による運転不能箇所が急増(本館の10系統以上や東実習棟において室外機基盤及び圧縮機の不良、それぞれC判定)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果(第1段階:B2, 第2段階:運用集約・施設改修)について、東部・中部・西部の地域バランスから、集約は困難であり、改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	技術専門校あり方検討会報告書において、清水技術専門校設備技術科を1年制普通職業訓練として浜松技術専門校に移設し、浜松技術専門校における建設系訓練の充実を図ることが盛り込まれた。

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設



# 施設アセスメントシート

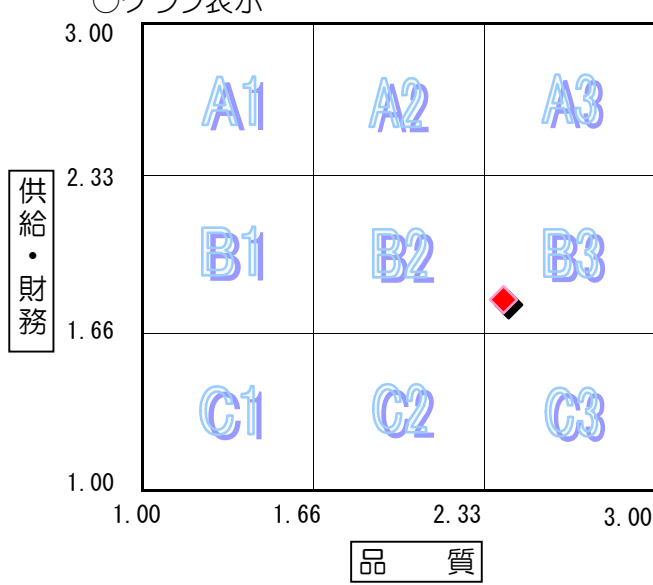
基本情報	施設番号	233107012001	施設名称	あしたか職業訓練校		外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	あしたか職業訓練校			
	用途	教育施設		設置年	1980		
	施設目的	障害者職業訓練					
	敷地面積	3,875.60 m <sup>2</sup>		延床面積	3,009.35 m <sup>2</sup>		内部 
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	164,915 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 沼津駅から バス30分					

◆ 第1段階 B3    品質 2.50点    供給・財務 1.80点

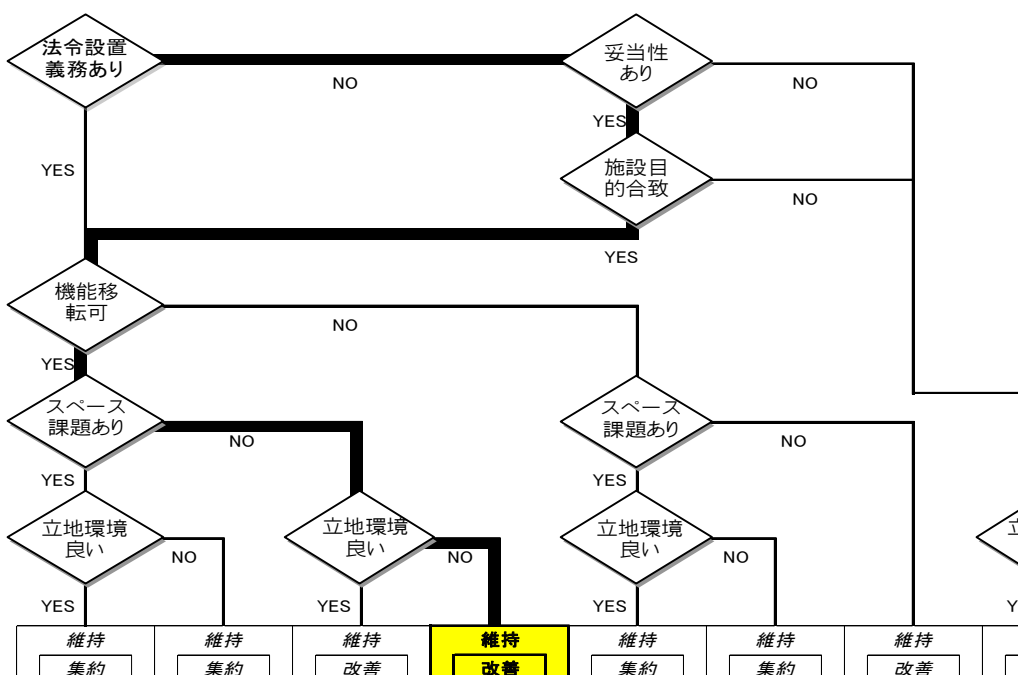
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2010.0年	3.00点
		外壁 2013.0年	3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2015.0年	3.00点
		受変電設備 2015.0年	3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.43GJ (53.97)	2.00点
供給	面積/人数	64.03m <sup>2</sup> (46.05)	3.00点
供給	生徒充足率	94.00%	1.00点
供給	入学試験倍率	1.2倍	2.00点
財務	コスト/人	1,002,211円 (59.72)	1.00点
財務	コスト/面積	5,662円 (48.07)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	401	百万円	維持管理費 B(※2)	212	百万円
	使用年数 A(※1)	36.0	年	小計	613	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	97	百万円	維持管理費 (※3)	59	百万円
	大規模改修費	554	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	710	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	97	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	651	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,084	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成28年度、第10次静岡県職業能力開発計画(29～33年度)を策定。
現在の利用状況	平日の日中は実習場において職業訓練を実施し、その他は訓練生による寮の使用となるため、昼夜問わず通年利用となっている。
これまでの保全の状況	H24'劣化診断により18箇所がC判定を受け、外壁・笠木の改修、冷却塔撤去、配管改修を実施し、現在はソーラーパネル架台の改修をすすめている。工事履歴としては、過去10年において、H27'空調設備、電気改修2,564万円、H26'給湯設備1,009万円、H25'タイル笠木改修(963万円)、H22'屋上防水改修(1,958万円)、H21'浴槽改修(586万円)、H19'渡廊下耐震補強(3,024万円)等があげられる。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果(第1段階:B3, 第2段階:運用改善・施設維持)について、変更希望なし。今後も、運用面では、県内唯一の障害者職業訓練施設として障害者の就業促進に貢献していき、施設面では、築35年が経過し老朽化が進む中、改修等を実施しながら維持を図っていく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	(非該当)

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設

# 施設アセスメントシート

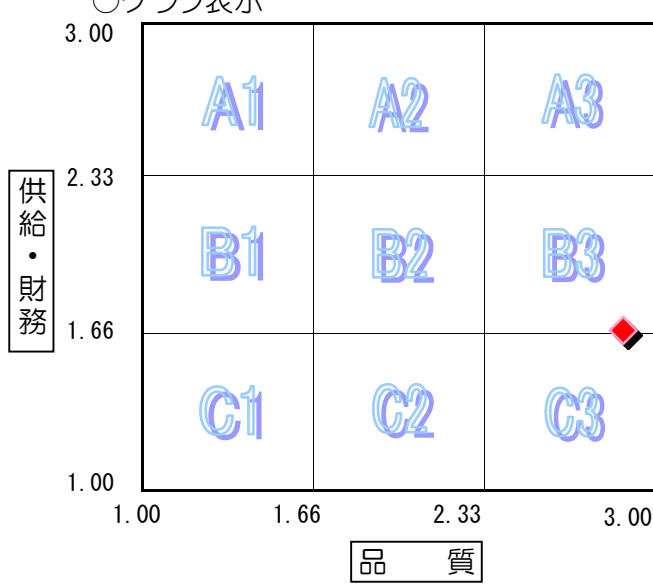
基本情報	施設番号	261103011001	施設名称	東部家畜保健衛生所		外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	東部農林事務所			
	用途	研究施設		設置年	2013		
	施設目的	地方における家畜衛生の向上を図り、もって畜産の振興に資する。					
	敷地面積	5,072.15 m <sup>2</sup>		延床面積	774.50 m <sup>2</sup>		内部 
	土地台帳価格	488,376 千円		建物台帳価格	164,773 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域		路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆仁田から 徒歩7分					

◆ 第1段階 B3    品質 3.00点    供給・財務 1.67点

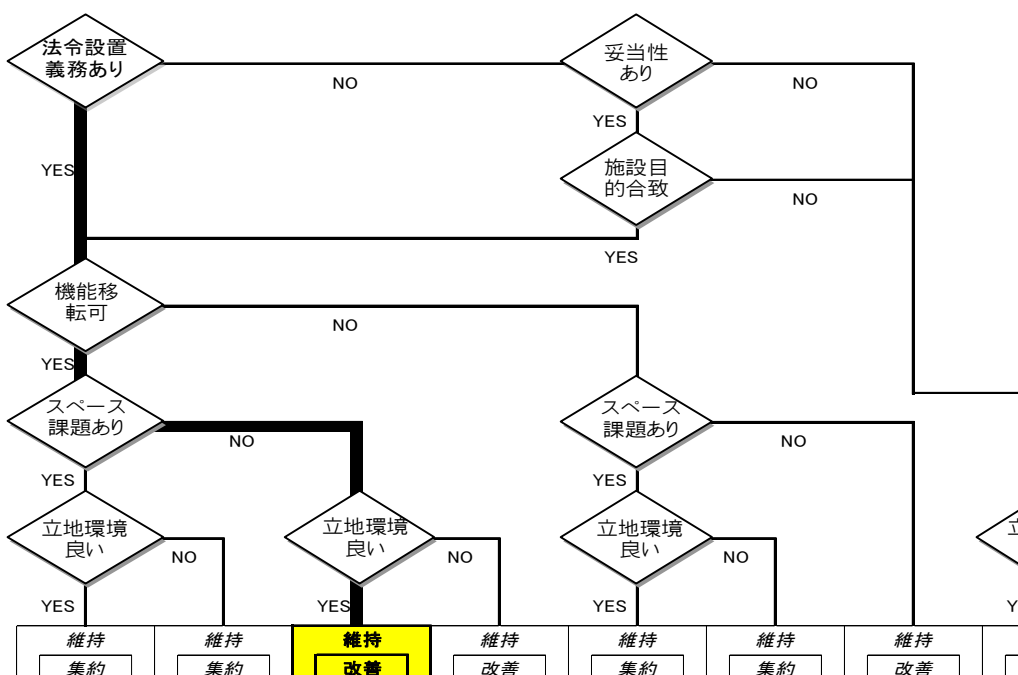
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	3.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2013.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	2013.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.51GJ (55.64)	3.00点
供給	面積/人数	26.93m <sup>2</sup> (43.21)	2.00点
財務	コスト/人	686,555円 (53.97)	2.00点
財務	コスト/面積	13,297円 (59.00)	1.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	169	百万円	維持管理費 B(※2)	3	百万円
	使用年数 A(※1)	3.0	年	小計	172	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	45	百万円	維持管理費 (※3)	10	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	54	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	45	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	337	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	551	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	現段階で統廃合や再編等の方針無し。
現在の利用状況	開庁日(平日8:30~17:15)は家畜衛生・防疫業務に使用。
これまでの保全の状況	平成25年2月新築のため、大きな修繕及び改修は無い。
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	法令設置義務があり、施設についても新しいため、第2段階の結果とおり維持・改善(施設は維持しつつ、コスト面の改善を図る)とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	家畜保健衛生所法第1条

総合評価



施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

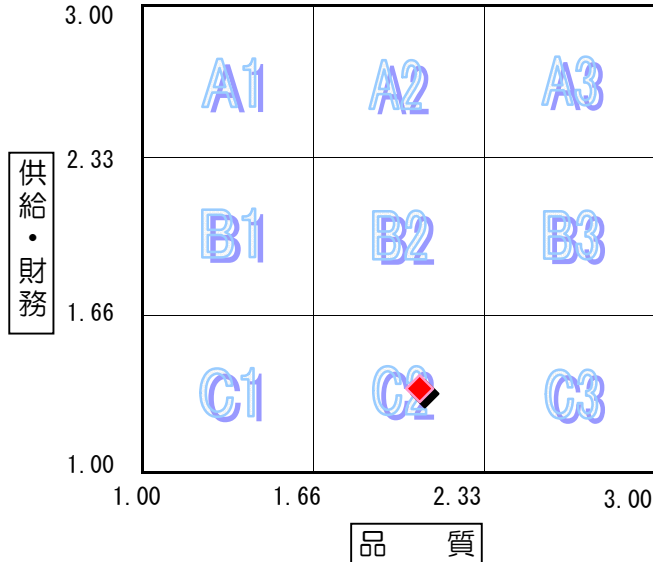
基本情報	施設番号	261103011018	施設名称	東部農林事務所きのこ総合センター	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	東部農林事務所	
	用途	研究施設	設置年	1990	
	施設目的	きのこ産業振興のための普及・指導を行い、あわせて展示施設の運営によりきのこ類の消費拡大を図る。			
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	547.58 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺から バス20分 徒歩1分			

◆ 第1段階 C2    品質 2.15点    供給・財務 1.33点

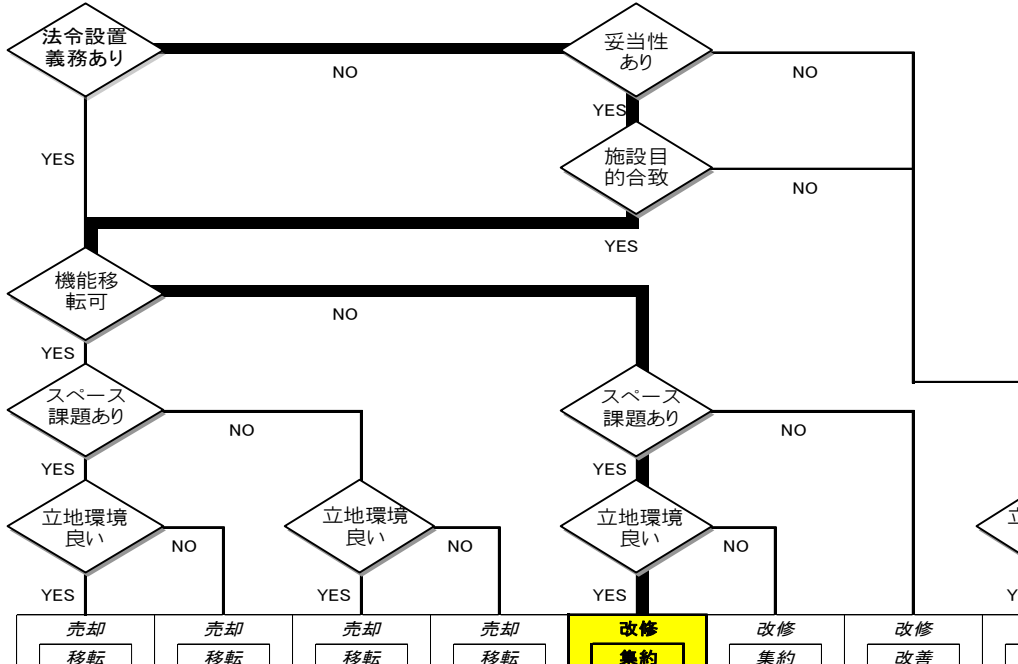
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2000.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2000.0年 2.00点
		受変電設備	1990.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.42GJ (56.52)	3.00点
供給	面積/人数	230.00m <sup>2</sup> (73.73)	1.00点
財務	コスト/人	5,701,576円 (145.45)	1.00点
財務	コスト/面積	10,412円 (54.87)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	200	百万円	維持管理費 B(※2)	22	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	222	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	32	百万円	維持管理費 (※3)	9	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	40	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	32	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	239	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	390	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	現段階で統廃合や再編等の方針無し。
現在の利用状況	年末年始6日を除く年間359日午前9時45分～午後4時15分まで、きのこ等生産振興業務(平日)とセンター展示室にてきのこ普及のための展示を行っており、来館者は年間約5,500人。
これまでの保全の状況	過去の修繕・改修:H20屋根改修工事2,499千円、H21壁面等劣化破損部分補修工事1,470千円、H24本館屋根改修工事1,575千円、H25本館北側屋根改修工事2,310千円
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する必要があるが集約は困難なため改善(コスト面)としたい。施設面については25年を経過した施設であるため、計画保全により長寿命化を図り第2段階のとおり改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、設立当初に比べて、職員数も減少しているなど、スペースの課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。
----	---

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	261105011003	施設名称	富士農林事務所育種場	外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	富士農林事務所	
	用途	研究施設	設置年	1982	
	施設目的	①県内造林用のスギ、クロマツの種子を確保するため、種子採種、精選等、②緑化見本園を活用した普及啓発			内部 
	敷地面積	31,604.00 m <sup>2</sup>	延床面積	542.00 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	1,264 千円	建物台帳価格	11,752 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-			

◆第1段階 A2    品質 2.01点    供給・財務 2.50点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.7年	2.37点
品質	建築劣化度	屋上防水	1988.3年 1.37点
		外壁	1988.3年 1.37点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1988.3年 1.37点
		受変電設備	1988.3年 1.37点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.89点
品質	エネルギー/面積	0.16GJ (59.18)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	434,484円 (49.37)	2.00点
財務	コスト/面積	1,603円 (42.26)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示

◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	75	百万円	維持管理費 B(※2)	3	百万円
	使用年数 A(※1)	27.7	年	小計	78	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	31	百万円	維持管理費 (※3)	1	百万円
	大規模改修費	129	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	162	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	31	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	236	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	386	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	産地、系統が明らかで優良な種子、苗木を安定的に供給するために、「県の育種場の採種圃等管理、種子生産」、「苗木の系統確認業務」、「花粉発生源対策品種の採種圃造成」、「種苗生産者の研修等への助成」を行っている。
現在の利用状況	育種場内の採種圃から県内造林用のスギ・ヒノキ、クロマツの種子を採取、精選等を実施し、採種圃等場内の維持管理も行う。平成27年度は研修に関する外来の来場者は435人となっている。
これまでの保全の状況	ブラインド、ポンプ、バルブの修繕等を行っており、外来の来場者への配慮に関する施設の整備や苗木を育てるための施設修理を行っている。
その他	採種圃スギ1.11ha、少花粉スギ0.83ha、抵抗性クロマツ0.34ha。採種圃スギ0.15ha

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるためには、将来にわたって適正な森林の整備と保全を図ることが重要であるが、森林造成には数十年を要し、容易に植替えなどのやり直しがきかないことから、苗木の優劣は健全な森林造成を図る上で大きな要因となっている。このため、優良な種子、穂木の供給源を確保し、系統の明らかな種苗の流通体制を確立するため、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	森林・林業基本法第12条、林業種苗法第1条、第30条、林業種苗法施行令第1条、林業用優良種苗生産需給調整要綱

#### □総合評価

施設面: **改修**



運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。



# 施設アセスメントシート

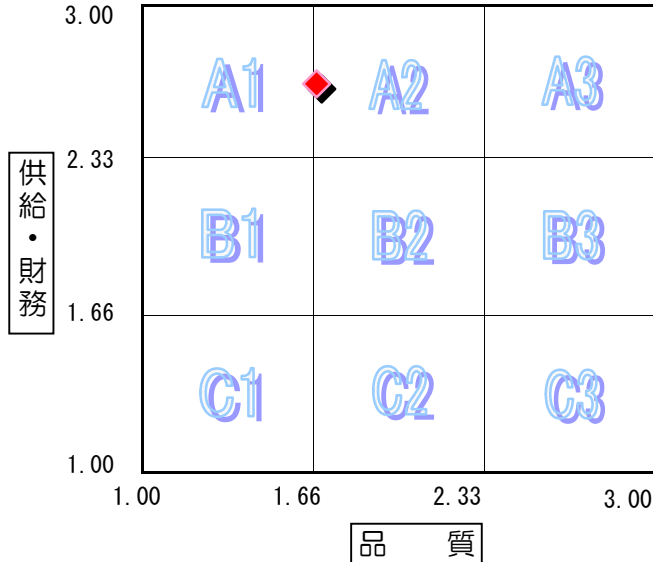
基本情報	施設番号	261107012003	施設名称	県民の森		外部
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	中部農林事務所		
	用途	集客施設		設置年	1980	
	施設目的	優れた自然環境の中での研修、野外活動、自然とのふれあい体験等を通じて森林及び林業に対する理解を深めるとともに、県民の保健休養に資する				
	敷地面積	2,917,168.01 m <sup>2</sup>	延床面積	1,376.10 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	32,631 千円	建物台帳価格	125,671 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR静岡駅から バス2時間 徒歩2時間				

◆第1段階 **A2**    品質 1.72点    供給・財務 2.67点

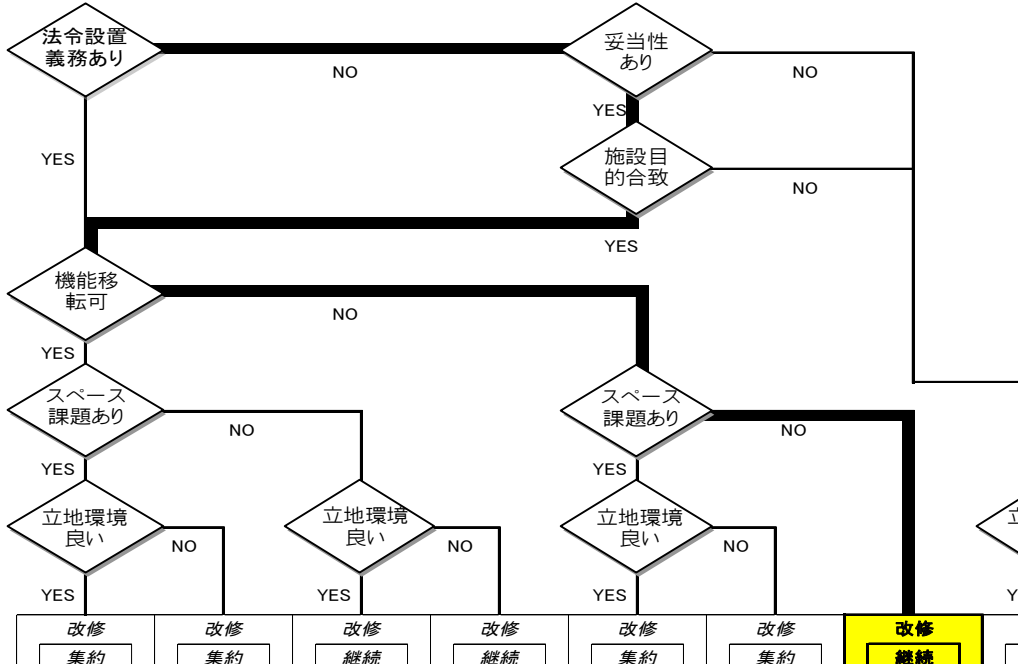
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	38.8年	1.74点
品質	建築劣化度	屋上防水	1977.2年 1.00点
		外壁	1986.2年 1.26点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1977.2年 1.00点
		受変電設備	2002.4年 2.49点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.23点
品質	エネルギー/面積	0.58GJ (54.88)	2.00点
供給	稼働率	96.8%	3.00点
財務	コスト/人	2,425円 (41.49)	3.00点
財務	コスト/面積	6,991円 (49.97)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 継続**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	263	百万円	維持管理費 B(※2)	139	百万円
	使用年数 A(※1)	38.8	年	小計	402	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	79	百万円	維持管理費 (※3)	36	百万円
	大規模改修費	365	百万円	建替え経費	211	百万円
	解体費	9	百万円	小計	700	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	79	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	571	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	932	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無し。ただし、平成27年度から井川3施設(県民の森、リバウエル井川スキー場、井川自然の家)による意見交換会を実施しており、3施設の連携強化と県民の森の今後のあり方について検討している。
現在の利用状況	平日や梅雨時期などは利用者が低迷しているが、GWや夏休み期間中は満室になることも多い。
これまでの保全の状況	建築、電気、機械いずれも耐用年数を大幅に経過しており、劣化診断では半数以上の項目がC判定である。電気施設の更新を最優先とし、H26にキュービクルNo.1-2を更新(11,340千円)。H27にキュービクルNo.2及び高圧ケーブルの更新設計委託(4,050千円)。H28以降も計画的に更新していく。(合計107,563千円見込)
その他	標高1500mに気軽に宿泊できる貴重な施設。南アルプスがユネスコエコパークに登録され、井川地域の豊かな自然環境にも注目が高まっており、当施設も発展的な活用が期待できる。一方で、市街地からのアクセスが悪く(車で2時間。公共交通機関なし。)、アクセス道路も脆弱。施設の保全には厳しい気候条件。(高湿度、冬季の積雪。)

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、施設に求められる社会的ニーズの変化に対応する必要があり、施設面においては築35年を越え老朽化が著しいため改修等の手当てをする必要がある。第2段階の結果のとおり、改修・継続が望ましい。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設。  
※敷地が広大であるが、施設用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。

# 施設アセスメントシート

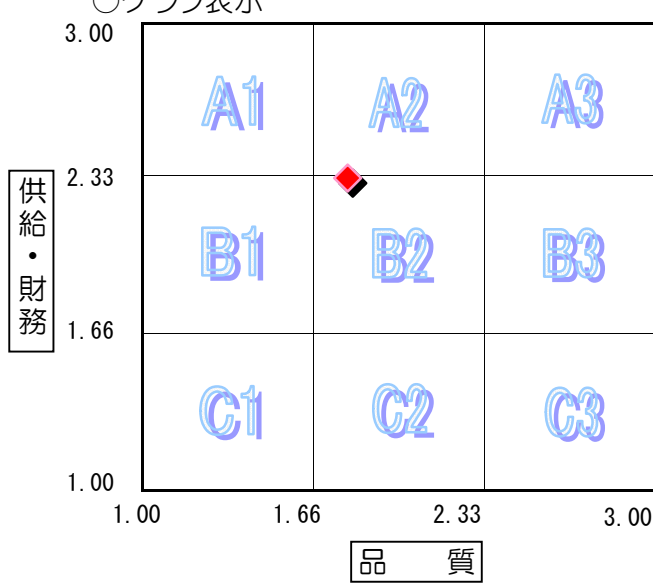
基本情報	施設番号	261109011002	施設名称	中部家畜保健衛生所		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	志太榛原農林事務所			
	用途	研究施設	設置年	1987			
	施設目的	家畜衛生の向上と畜産の振興					
	敷地面積	4,074.97 m <sup>2</sup>	延床面積	1,569.34 m <sup>2</sup>			内部
	土地台帳価格	262,224 千円	建物台帳価格	212,069 千円			
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: 島田駅から バス10分					

◆ 第1段階 A2    品質 1.85点    供給・財務 2.33点

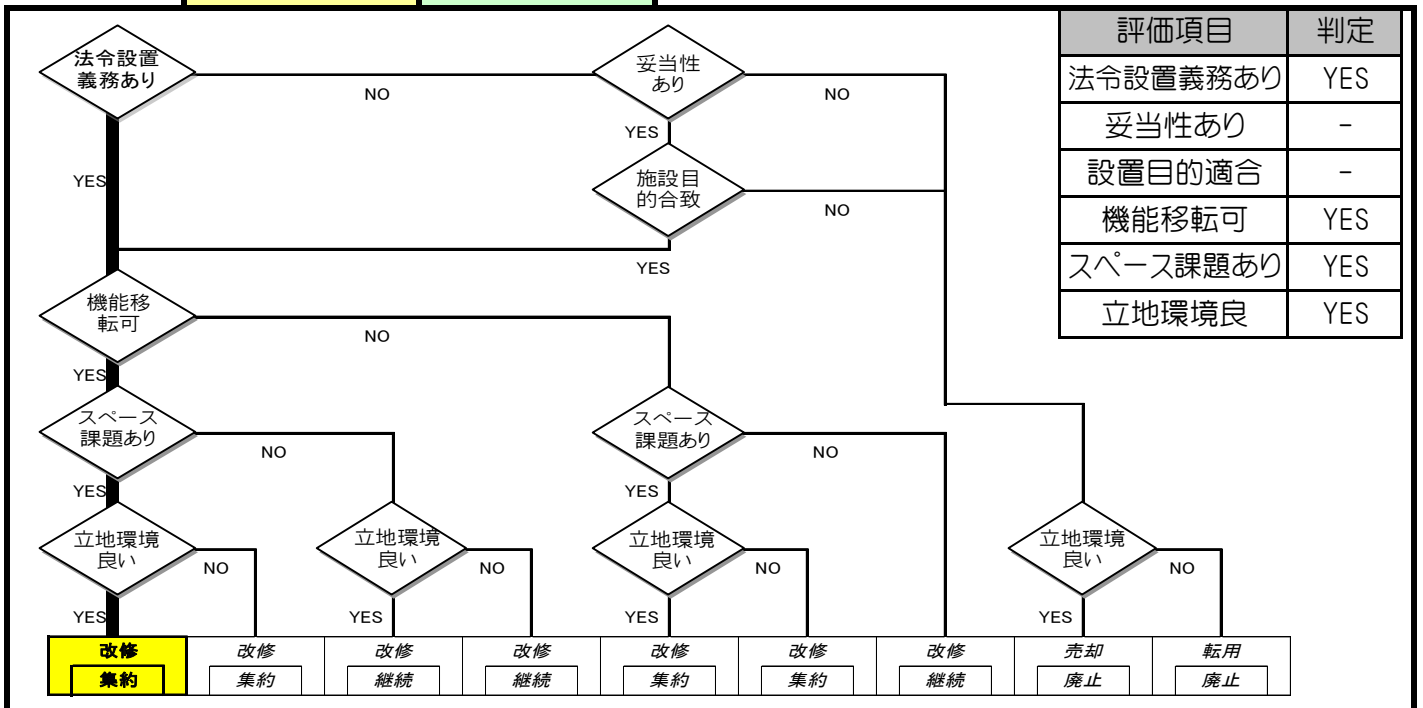
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	29.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1987.0年 1.00点
		外壁	1987.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.0年 2.00点
		受変電設備	1987.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.56GJ (55.17)	3.00点
供給	面積/人数	26.67m <sup>2</sup> (43.17)	2.00点
財務	コスト/人	294,577円 (46.82)	2.00点
財務	コスト/面積	2,816円 (43.99)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	316	百万円	維持管理費 B(※2)	55	百万円
	使用年数 A(※1)	29.0	年	小計	371	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	90	百万円	維持管理費 (※3)	19	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	109	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全 パターン	90	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修 パターン	684	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替え パターン	1,117	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	一般来庁者は少ないが、特殊な検査室、解剖等を備え、県下唯一の病性鑑定機能を有し、東西家畜保健衛生所から検査材料が持ち込まれる。
これまでの保全の状況	H14年旧保健所施設を改修し、現在の家畜保健衛生所とした。H26年度に 2階水漏れ修繕実施。H27年10月劣化診断を受け、建物の屋根、外壁の劣化等でC判定の指摘があった。
その他	受変電設備は更新時期となっている。(H28に部品交換を実施した。) 玄関自動ドア等の修理を実施した。

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	県下唯一の高度病性鑑定機能を備えた施設であり、継続する。老朽化による施設の補修は行っていく必要がある。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要  
足 がある施設

# 施設アセスメントシート

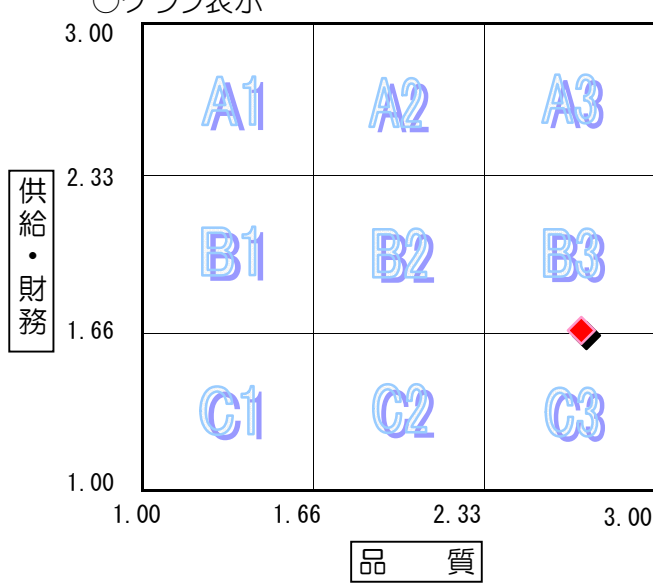
基本情報	施設番号	261111011008	施設名称	西部家畜保健衛生所	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	中遠農林事務所	
	用途	研究施設	設置年	2012	
	施設目的	家畜衛生の向上を図り、もって畜産振興に資する			
	敷地面積	4,616.47 m <sup>2</sup>	延床面積	1,002.00 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	185,450 千円	建物台帳価格	193,707 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:遠州西ヶ崎駅から 徒歩10分			

◆第1段階 B3    品質 2.83点    供給・財務 1.67点

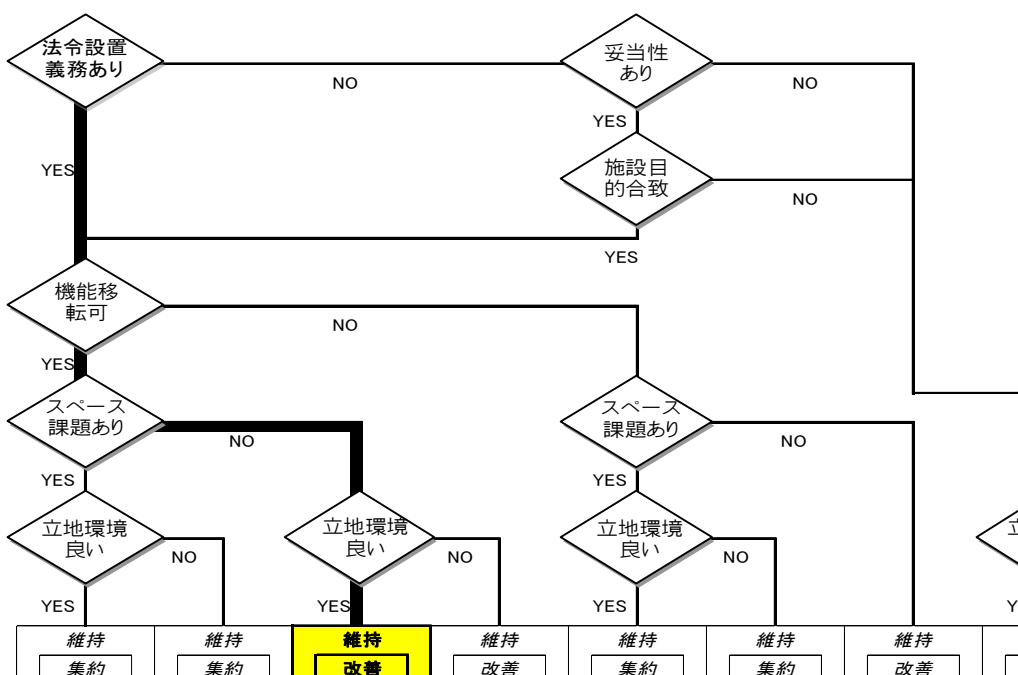
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	6.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2010.0年	2.77点
品質		外壁 2010.0年	2.77点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2010.0年	2.77点
品質		受変電設備 2010.0年	2.77点
品質	津波性能	3.00点   耐震性能	2.32点
品質	エネルギー/面積	1.03GJ (50.37)	2.00点
供給	面積/人数	21.93m <sup>2</sup> (42.46)	2.00点
財務	コスト/人	704,858円 (54.30)	2.00点
財務	コスト/面積	10,552円 (55.07)	1.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	206	百万円	維持管理費 B(※2)	6	百万円
	使用年数 A(※1)	6.0	年	小計	212	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	58	百万円	維持管理費 (※3)	10	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	68	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	58	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	437	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	713	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	法令により設置することが義務付けられている施設である。平成15年に狂牛病の発症に備えて病性鑑定用施設(BSE棟)が設置され、鳥インフルエンザへの対応のため移動式焼却炉が配備されている。
現在の利用状況	日々、家畜保健衛生所の業務に使用している。
これまでの保全の状況	事務所棟、検査棟、解剖棟、危険物保管庫、車庫棟は平成24年11月竣工、病性鑑定用施設(BSE棟)は平成15年3月竣工である。BSE棟を除いて建築後年数が少ないため修理・修繕を要していない。BSE棟も修繕を要するに至っていない。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	法令設置義務がある施設であるので存続は当然である。広さ等は現状適切であり、敷地拡大や増築の必要性は認められず、また、今のところ法令の要請もない。第2段階で出された改善・維持の方向性は妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

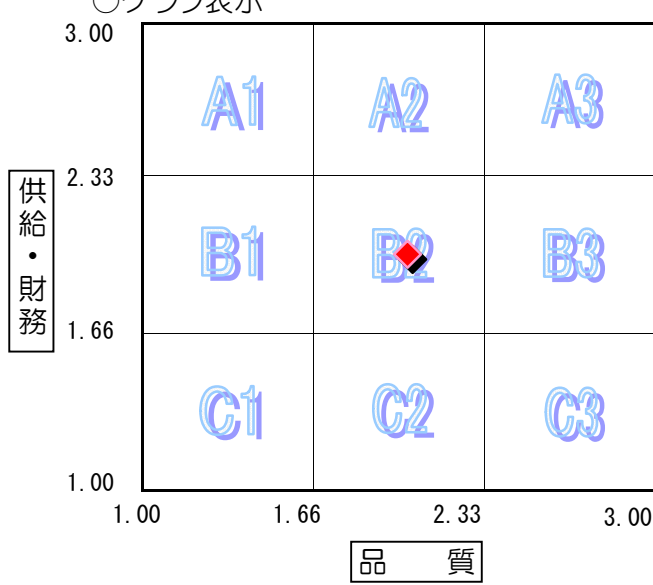
基本情報	施設番号	261115011013	施設名称	北遠総合庁舎		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	西部農林事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1982	
	施設目的	県総合庁舎				
	敷地面積	7,720.42 m <sup>2</sup>	延床面積	3,507.70 m <sup>2</sup>		内部 
	土地台帳価格	241,313 千円	建物台帳価格	356,252 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	37,100 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:遠鉄西鹿島から 徒歩15分				

◆ 第1段階 B2    品質 2.10点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

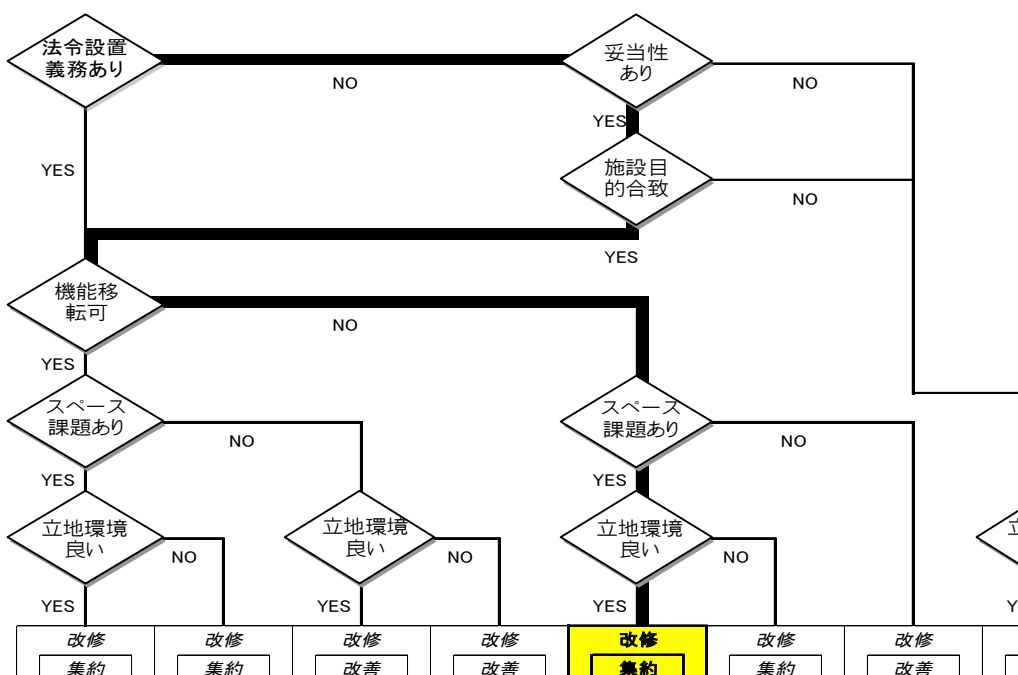
品質	建築後経過年数	34.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1982.0年 1.00点
		外壁	2015.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	1982.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.62GJ (48.33)	2.00点
供給	面積/人数	14.46m <sup>2</sup> (54.36)	3.00点
財務	コスト/人	561,081円 (51.68)	2.00点
財務	コスト/面積	13,436円 (59.20)	1.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	665	百万円	維持管理費 B(※2)	514	百万円
	使用年数 A(※1)	34.0	年	小計	1,179	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	202	百万円	維持管理費 (※3)	151	百万円
	大規模改修費	812	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,166	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	202	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,015	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,640	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	主に県の出先機関が事務所として利用している。
これまでの保全の状況	
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に北遠地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。
----	--

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	261115012006	施設名称	森林公園	外部
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	西部農林事務所	
	用途	集客施設	設置年	1972	
	施設目的	優れた自然環境の中で、野外活動や自然とのふれあい体験等を通じて森林及び林業に対する理解を深めるとともに、県民の保健休養に資する			
	敷地面積	9,859.30 m <sup>2</sup>	延床面積	561.49 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	35,817 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:天浜線宮口から 徒歩10分			

## ◆第1段階 A1 品質 1.41点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	35.5年	1.47点
品質	建築劣化度	屋上防水	1990.0年 0.47点
		外壁	1980.5年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1980.5年 1.00点
		受変電設備	1980.5年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.95点
品質	エネルギー/面積	0.44GJ (56.29)	3.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	8円 (41.44)	3.00点
財務	コスト/面積	11,920円 (57.03)	1.00点

○グラフ表示

## ◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	97	百万円	維持管理費 B(※2)	171	百万円
	使用年数 A(※1)	35.5	年	小計	268	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	32	百万円	維持管理費 (※3)	48	百万円
	大規模改修費	106	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	186	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	32	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	233	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	380	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	森林公園再整備計画にて、現在老朽化した施設等を順次更新・撤去している。
現在の利用状況	平成27年度の公園利用者は約83万人。平日も多くの県民が訪れて、園内を散策する姿が見られる。
これまでの保全の状況	平成27年度に老朽化施設撤去や安全施設整備等に約8,300万円を実施している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面において築44年を超え老朽化が深刻化しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

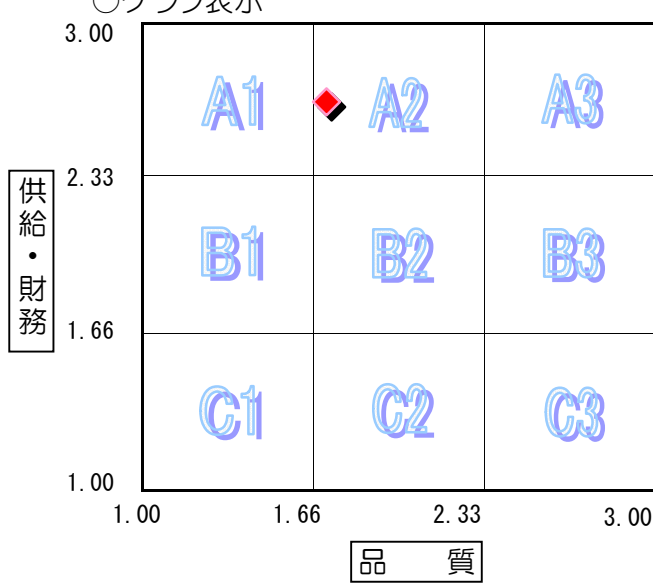
基本情報	施設番号	261115012009	施設名称	県立森林公園森の家		外部 
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	西部農林事務所		
	用途	集客施設		設置年	1992	
	施設目的	自然保護思想や森林・林業に対する理解を深める拠点(宿泊研修施設)				内部 
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	2,896.93 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	264,211 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:遠鉄西鹿島から 徒歩40分 徒歩30分				

◆ 第1段階 A2    品質 1.76点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

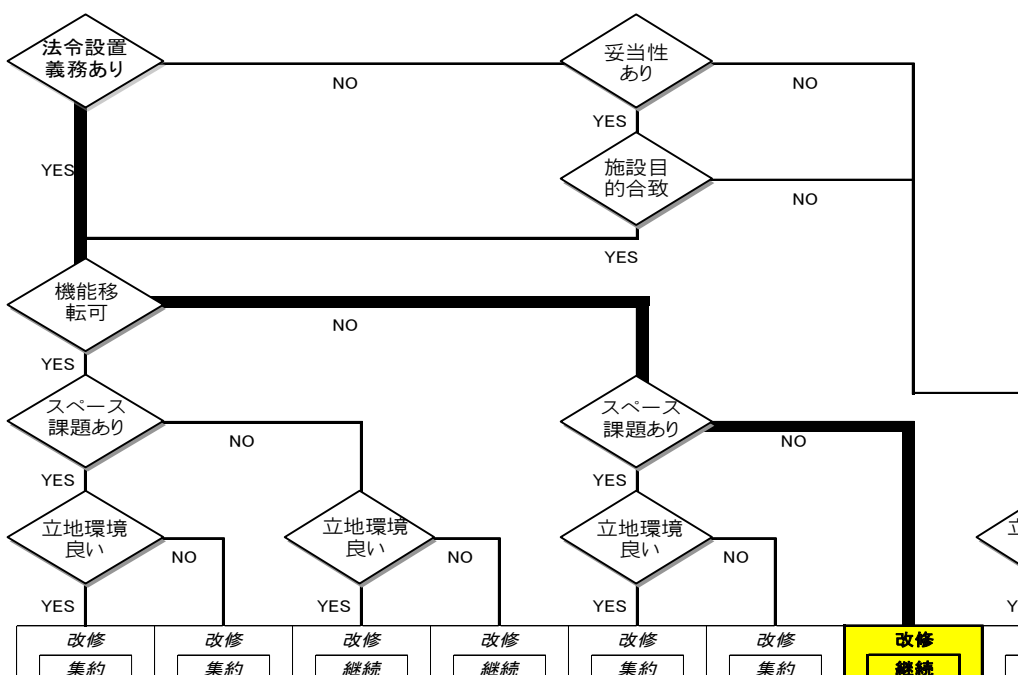
品質	建築後経過年数	24.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1992.0年	1.00点
		外壁 2001.7年	1.88点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1994.5年	1.23点
		受変電設備 1992.0年	1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.72GJ (43.38)	1.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	1,652円 (41.47)	3.00点
財務	コスト/面積	5,948円 (48.48)	2.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,193	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	24.0	年	小計	1,193	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	167	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	167	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	167	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,203	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,963	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	森林公園再整備計画にて、現在老朽化した施設等を順次更新・撤去している。
現在の利用状況	平成27年度の森の家利用者は約86,000人(宿泊・研修・レストラン)。特に宿泊者数はここ2年間、対前年比割増の大きな伸びを見せている。
これまでの保全の状況	建築後24年が経過し、随所に木材を多用していることから老朽化の進行が著しい。漆喰壁剥離・雨漏り・給湯配管漏水・空調機器故障等、度重なるメンテナンス作業が頻発している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面において築24年を超え老朽化が深刻化しているため改修等の手当てをする必要がある。第2段階の結果のとおり、改修・継続が望ましい。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。 ※敷地が広大であるが、施設用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。
----	---

# 施設アセスメントシート

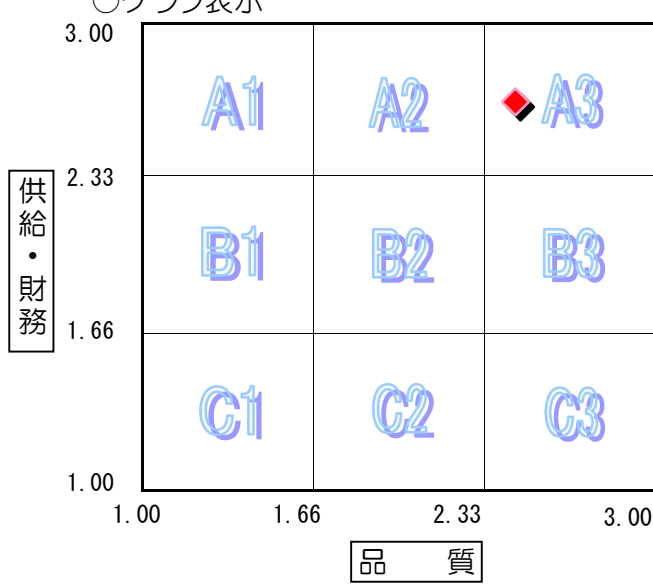
基本情報	施設番号	261115012010	施設名称	県立森林公園ビジターセンター	外部 
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	西部農林事務所	
	用途	集客施設	設置年	2003	
	施設目的	「共生」を基本理念として、自然との触れ合いをテーマに、鳥類を中心とした自然情報の発信や、自然学習や環境学習の体験型プログラムを実施			内部 
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	704.92 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	232,336 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-			

◆ 第1段階 A3    品質 2.55点    供給・財務 2.67点

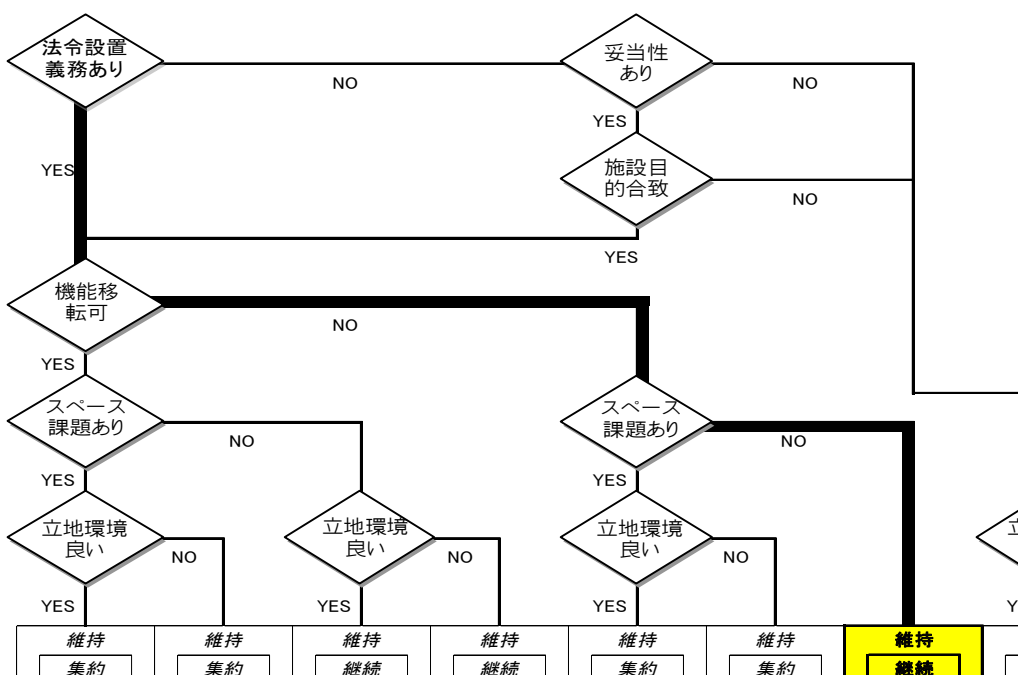
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	13.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.0年 2.00点
		外壁	2003.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.0年 2.00点
		受変電設備	2003.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.13GJ (49.38)	2.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	64円 (41.44)	3.00点
財務	コスト/面積	7,925円 (51.31)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	401	百万円	維持管理費 B(※2)	39	百万円
	使用年数 A(※1)	13.0	年	小計	440	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	41	百万円	維持管理費 (※3)	30	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	71	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	41	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	293	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	478	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	森林公園再整備計画にて、現在老朽化した施設等を順次更新・撤去している。
現在の利用状況	平成27年度のビジターセンター利用者は約88,000人。
これまでの保全の状況	築後13年を経過し、照明・放送・展示物等の各種設備の交換を実施した。また屋上緑化の植生基盤等が劣化・衰退しており、今後雨漏り等の不具合も生じる恐れがある。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある。第2段階の結果のとおり、維持・継続が望ましい。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。  
※敷地が広大であるが、施設用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。



# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	263300012001	施設名称	天城育成放牧場		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	畜産課			
	用途	研究施設		設置年	2005		
	施設目的	家畜資源の確保および畜産経営の改善に資する。				内部	
	敷地面積	578.00 m <sup>2</sup>		延床面積	7,779.12 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	20 千円		建物台帳価格	580,147 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆箱根鉄道修善寺駅から車40分					

◆ 第1段階 B3    品質 2.43点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	12.9年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.1年 2.00点
		外壁	2003.1年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.1年 2.00点
		受変電設備	1999.2年 0.61点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.17GJ (59.09)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	5,660円 (48.07)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	851	百万円	維持管理費 B(※2)	479	百万円
	使用年数 A(※1)	12.9	年	小計	1,330	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	448	百万円	維持管理費 (※3)	371	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	819	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	448	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,389	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,536	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	天城育成放牧場は、県内酪農家から預託された育成牛を飼育する施設であり、一年を通じて、概ね収容頭数(210頭)程度の利用がある。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化状況：H25劣化診断の結果、竣工後15～16年(当時)が経過した牛舎の屋根及び建具等が錆・腐食により損傷(C判定)</li> <li>修繕の履歴：H27に、牛舎縦樋を補修(H16建設)。費用は、約2,468千円の内数。</li> </ul>
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面については、県内酪農家から育成牛を預かり、優良な後継牛を育成する責務がある一方で、施設面においては、敷地環境(糞尿、強風、湿度等)により錆が進行し、劣化・損料が激しい箇所があるため、第2段階では改善(機能)・維持(施設)と判断されたが、施設については、改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価


施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

建物の構造上、築年数は浅いが、既に老朽化が進んでいる状態であるため、改修とする。

# 施設アセスメントシート

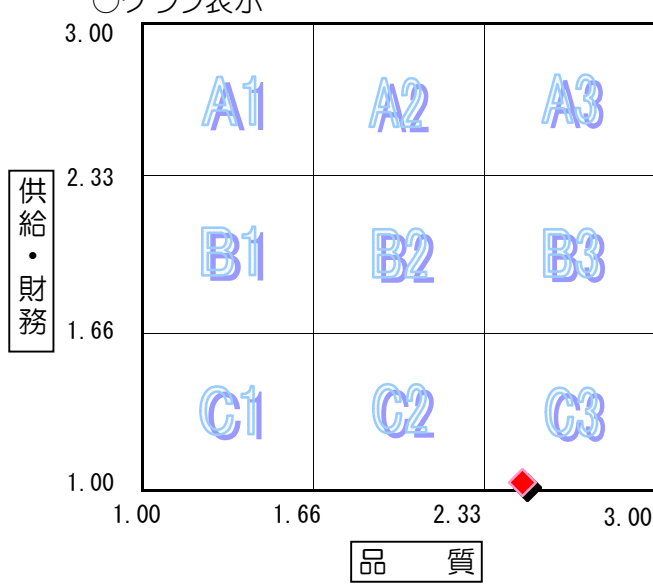
基本情報	施設番号	263300012005	施設名称	天城哺乳場		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	畜産課			
	用途	研究施設		設置年	2005		
	施設目的	家畜資源の確保および畜産経営の改善に資する。					
	敷地面積	578.00 m <sup>2</sup>	延床面積	2,501.37 m <sup>2</sup>			内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	106,699 千円			
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆箱根鉄道修善寺駅から車40分					

◆第1段階 C3    品質 2.58点    供給・財務 1.00点

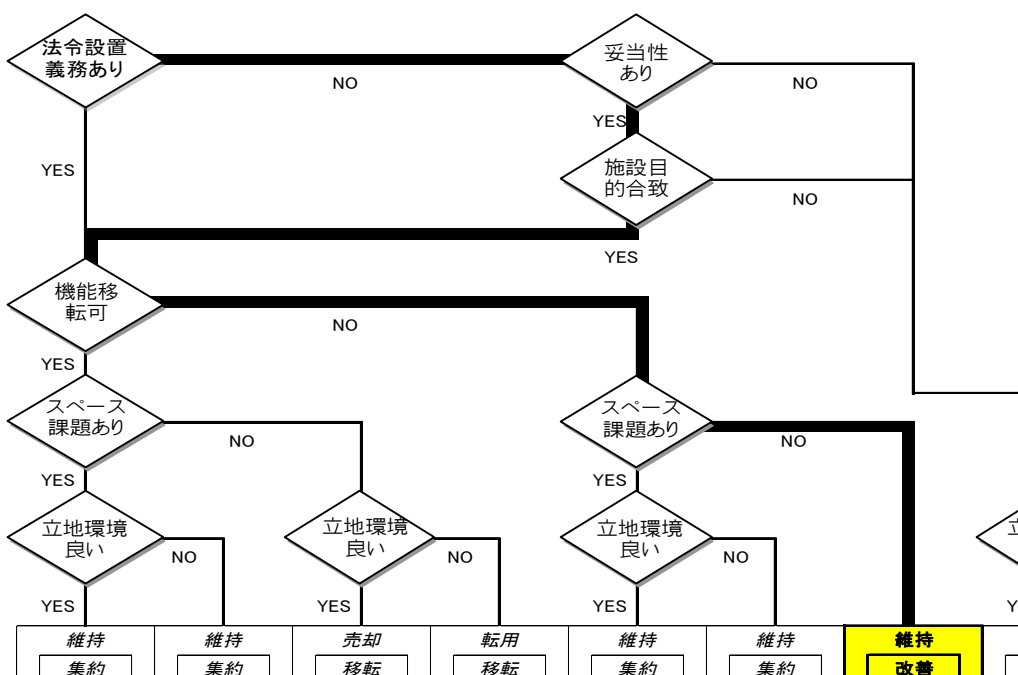
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	13.7年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2002.3年 2.00点
		外壁	2002.3年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2002.3年 2.00点
		受変電設備	2002.3年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.52GJ (55.52)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	17,602円 (65.17)	1.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	176	百万円	維持管理費 B(※2)	507	百万円
	使用年数 A(※1)	13.7	年	小計	683	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	144	百万円	維持管理費 (※3)	371	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	515	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	144	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,090	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,780	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	天城哺乳場は、県内酪農家から預託された子牛を飼育する施設であり、一年を通じて、概ね収容頭数(200頭)程度の利用がある。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化状況：H25劣化診断の結果、竣工後18年(当時)が経過した育成舎の屋根及び天井が著しく劣化・損傷(C判定)</li> <li>修繕の履歴：H21に、牛舎出入口の扉を修繕(H7建設)。費用は、約1,575千円の内数。</li> </ul>
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面については、県内酪農家から子牛を預かり、優良な後継牛を育成する責務がある一方で、施設面においては、敷地環境(糞尿や鳥害)による屋根や天井の劣化・損傷があり、第2段階では改善(機能)・維持(施設)と判断されたが、施設については、改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

建物の構造上、築年数は浅いが、既に老朽化が進んでいる状態であるため、改修とする。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	264300011005	施設名称	温水利用研究センター		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産資源課			
	用途	研究施設		設置年	2004		
	施設目的	栽培漁業を推進するため、有用魚介類の放流用種苗の生産・供給を行う				内部	
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>		延床面積	4,432.35 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	936,505 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-					

◆ 第1段階 B3    品質 2.51点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	12.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2004.0年 1.06点
		外壁	2004.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2004.0年 2.00点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.05GJ (50.13)	2.00点
供給	面積/人数	- -	-
財務	コスト/人	1,365,123円 (66.34)	1.00点
財務	コスト/面積	3,696円 (45.25)	2.00点
財務	収入/人	2,280円 (116.15)	3.00点
財務	支出/人	- -	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,245	百万円	維持管理費 B(※2)	23	百万円
	使用年数 A(※1)	12.0	年	小計	1,268	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	255	百万円	維持管理費 (※3)	19	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	275	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	255	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,931	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,154	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	温水利用研究センター沼津分場の整備と合せて検討中。
現在の利用状況	県内の栽培漁業を推進するため、温水利用研究センター沼津分場と分担して、放流用種苗の生産を行っている。※土地は借地
これまでの保全の状況	平成26年度に劣化診断を実施。一部、発錆によるC判定はあるものの、概ねAまたはBの判定であった。
その他	施設整備に関しては、種苗生産業務に重量な役割を果たす飼育水の安定確保を考慮する必要がある。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	放流事業は本県水産業を支える重要な事業であり、放流用種苗の必要数量を確保するためには、当施設は必要不可欠である。現在地は浜岡原子力発電所の温排水等が利用可能な好適な立地であり、第2段階の結果のとおり、改善・維持が妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	沿岸漁場整備開発法に基づき作成された「第7次静岡県栽培漁業基本計画」に基づき栽培漁業を推進するため。

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	264300011007	施設名称	温水利用研究センター沼津分場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産資源課	
	用途	研究施設	設置年	1982	
	施設目的	栽培漁業を推進するため、有用魚介類の放流用種苗の生産・供給を行う			
	敷地面積	9,122.71 m <sup>2</sup>	延床面積	1,770.00 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	542,150 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-			

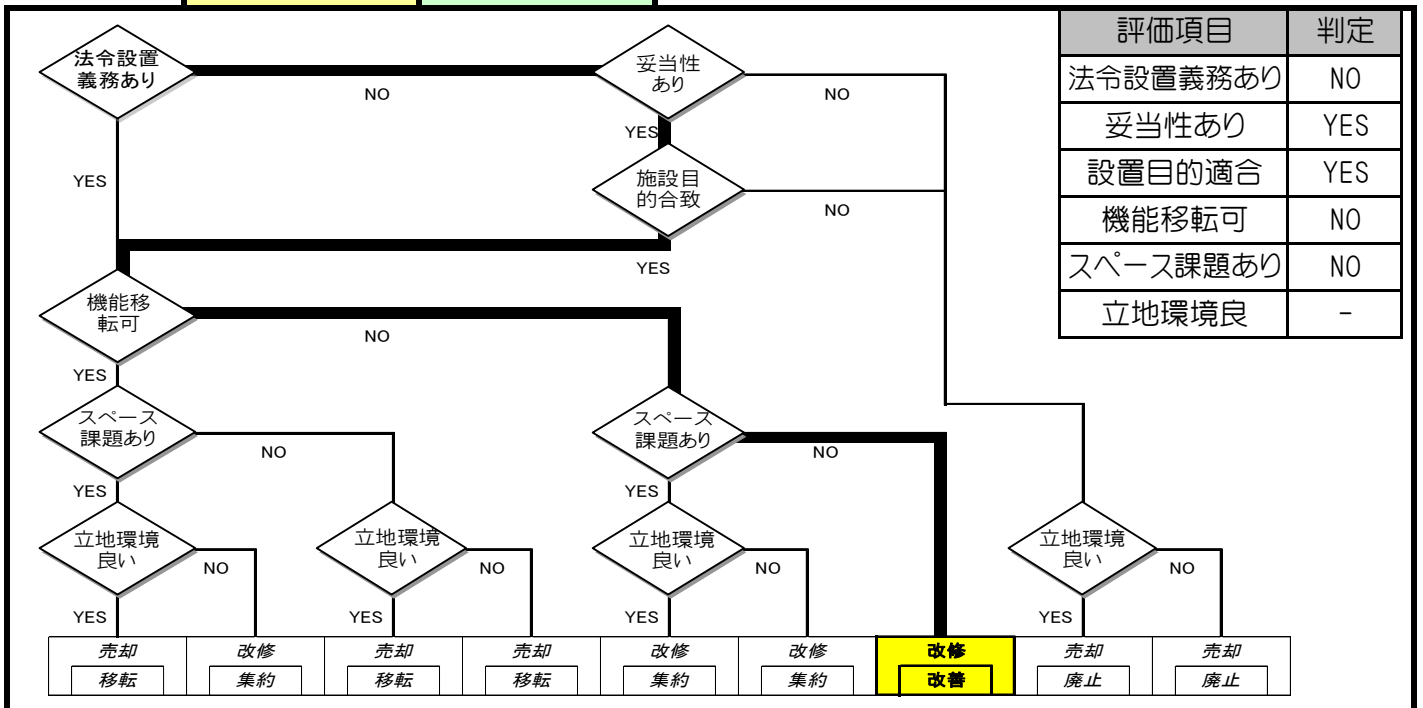
◆ 第1段階 **B1**    品質 1.63点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.3年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1982.0年 0.20点
		外壁	1981.7年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	1.94GJ (41.21)	1.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	2,685,184円 (90.42)	1.00点
財務	コスト/面積	6,068円 (48.65)	2.00点
財務	収入/人	3,160円 (147.36)	3.00点
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 改善**



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	309	百万円	維持管理費 B(※2)	67	百万円
	使用年数 A(※1)	34.3	年	小計	376	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	51	百万円	維持管理費 (※3)	19	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	70	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	102	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	771	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,260	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	温水利用研究センターの整備と合わせて検討中。
現在の利用状況	県内の栽培漁業を推進するため、温水利用研究センターと分担して、放流用種苗の生産を行っている。
これまでの保全の状況	平成16年度に施設の改修、再整備を実施。
その他	施設整備に関しては、種苗生産業務に重量な役割を果たす飼育水の安定確保を考慮する必要がある。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	放流事業は本県水産業を支える重要な事業であり、地域バランスに配慮して最適に配置されている現施設の機能は、放流用種苗の確保に必要不可欠である。現施設は、築30年を経過しており、施設の維持が困難なほど老朽化が著しいと判断されれば、再整備が必要であることから、第2段階の結果のとおり、改善・改修が妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	沿岸漁場整備開発法に基づき作成された「第7次静岡県栽培漁業基本計画」に基づき栽培漁業を推進するため。

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

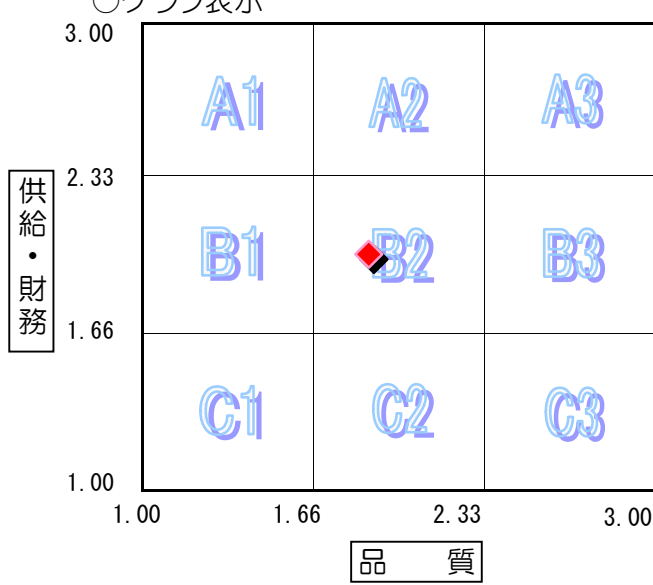
基本情報	施設番号	264300011008	施設名称	水産技術研究所沼津分室	外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産資源課		
	用途	研究施設	設置年	1978		
	施設目的	海面養殖における魚病対策や技術指導を行う				内部 
	敷地面積	5,152.00 m <sup>2</sup>	延床面積	1,062.86 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	46,416 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 B2    品質 1.94点    供給・財務 2.00点

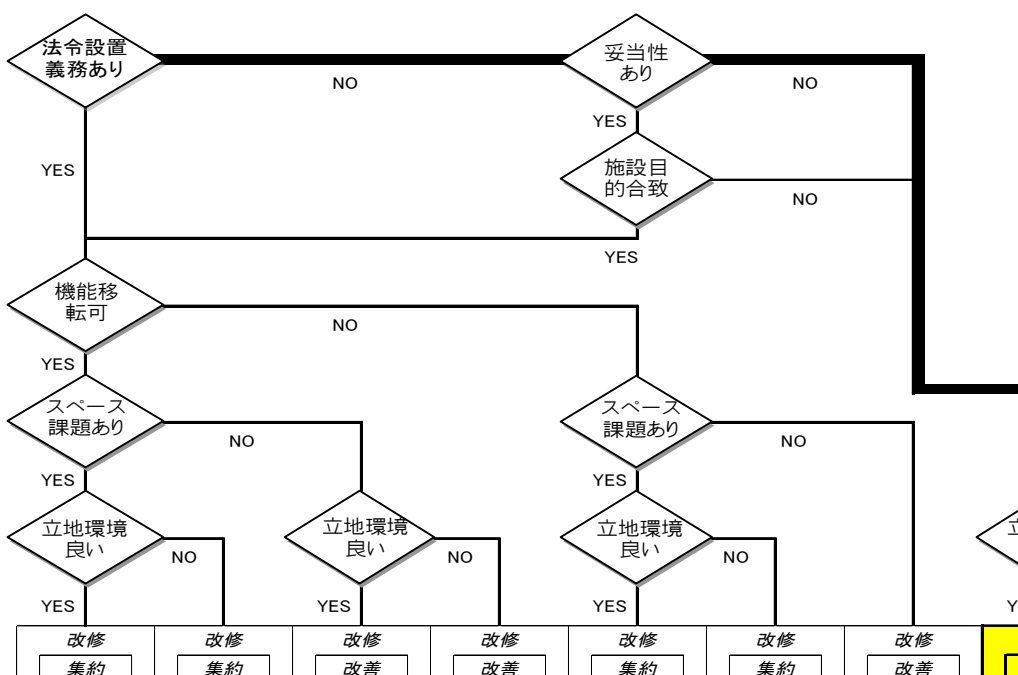
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	38.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1978.0年 1.00点
		外壁	1978.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.14GJ (59.35)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	3,697円 (45.25)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却    運用面: 廃止



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	88	百万円	維持管理費 B(※2)	32	百万円
	使用年数 A(※1)	38.0	年	小計	120	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	31	百万円	維持管理費 (※3)	8	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	39	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	61	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	463	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	756	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	温水利用研究センター沼津分場の再整備場所としての可能性を検討中。
現在の利用状況	建物は未使用。ただし、隣接する温水利用研究センター沼津分場へ送電するための受変電設備のみ稼働中。
これまでの保全の状況	平成27年度の劣化診断カルテでは、高圧引込ケーブル及び非常用発電機の更新を指摘された。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	当施設には、隣接する温水利用研究センター沼津分場へ送電するための受変電設備がある。本設備を温水利用研究センター沼津分場へ移動できれば、第2段階の結果のとおり廃止・売却は妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **売却**

運用面: **廃止**

補足	廃止、売却の方向で条件等の整備を検討をしていく必要がある施設。
----	---------------------------------

# 施設アセスメントシート

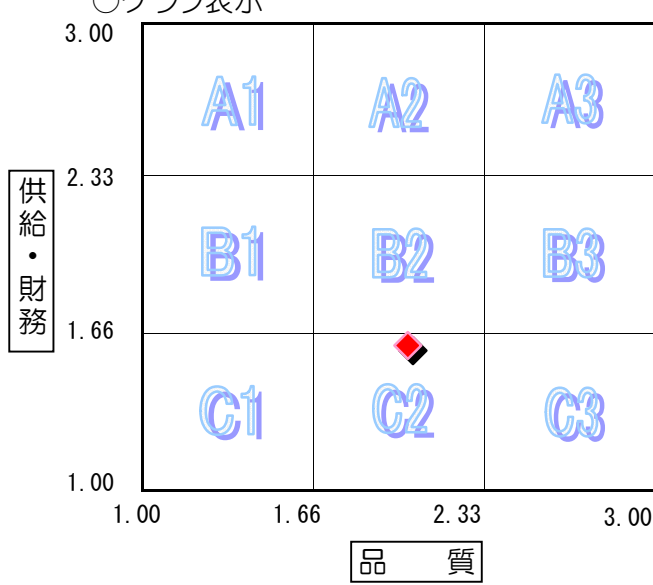
基本情報	施設番号	265103012001	施設名称	漁業高等学園		外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	漁業高等学園			
	用途	教育施設		設置年	1995		
	施設目的	次代の本県漁業を担う幹部漁船員の養成					内部 
	敷地面積	7,452.68 m <sup>2</sup>	延床面積	2,541.73 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	136,607 千円	建物台帳価格	300,448 千円			
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: JR焼津駅から バス10分 徒歩25分					

◆ 第1段階 C2    品質 2.10点    供給・財務 1.60点

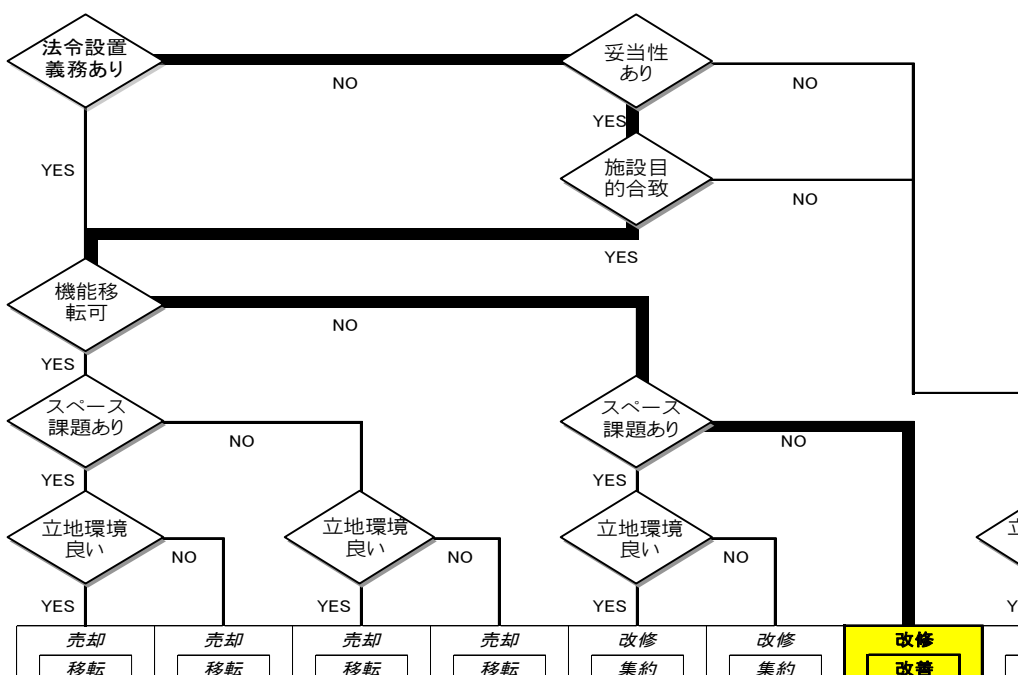
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.8年	2.23点
品質	建築劣化度	屋上防水 1995.2年	1.23点
		外壁 2005.2年	2.77点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1995.2年	1.23点
		受変電設備 1995.2年	1.23点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.33GJ (56.73)	3.00点
供給	面積/人数	158.86m <sup>2</sup> (62.16)	1.00点
供給	生徒充足率	80.00%	1.00点
供給	入学試験倍率	1.1倍	2.00点
財務	コスト/人	857,258円 (57.08)	1.00点
財務	コスト/面積	3,035円 (44.31)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	561	百万円	維持管理費 B(※2)	64	百万円
	使用年数 A(※1)	20.8	年	小計	625	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	82	百万円	維持管理費 (※3)	31	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	113	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	82	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	550	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	915	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	漁業従事者の減少と高齢化が進行する中、本学園は即戦力となる漁業従事者の養成に特化した教育を行い、卒業生全員が県内漁業に就業している。漁業後継者を養成する本学園の果たす役割は引き続き重要であると考え。
現在の利用状況	漁業者を志す中学校卒業以上の若者を対象に、将来の漁船漁業の中堅幹部候補者の養成を目的として、漁業に関する知識・技能の教育・訓練を行っている。今年度は、19名(定員20名)の生徒を全寮制で指導している。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回劣化診断(平成24年7月10日)でC判定の事項については対応済み。</li> <li>・台風など風雨が強い時、機関実習棟、航海実習棟、宿泊棟、教育棟で雨漏りが発生している。特に機関実習棟については、船用ディーゼル機関システム実習装置など高額備品への悪影響が危惧される。</li> <li>・平成28年3月、消防用設備(防災受信盤)の改修工事(2,484,000円)を施工。</li> </ul>
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	技術革新に的確に対応できる漁業後継者の養成が求められており、運用面においては、新技術や情報通信機器の導入など、設備や備品類の改善が必要である。一方、施設面においては、築20年を超え老朽化が進行しているため改修等の手当をする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**



運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

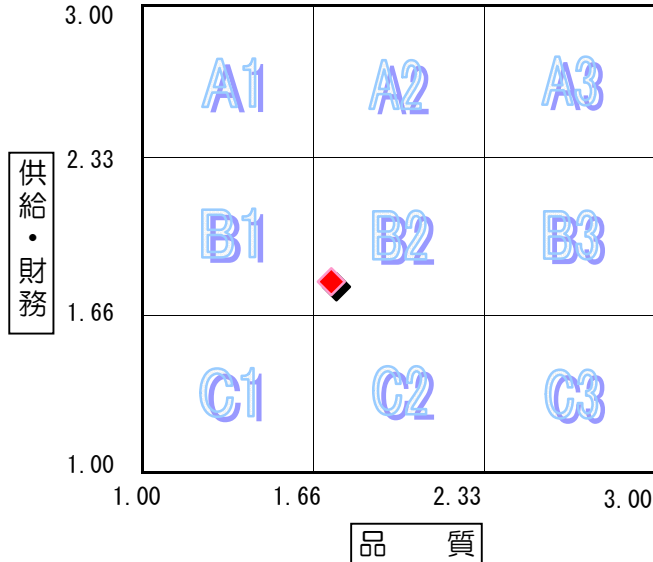
基本情報	施設番号	265105012001	施設名称	農林大学校		外部	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林大学校			
	用途	教育施設		設置年	1980		
	施設目的	農業従事者養成					
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>		延床面積	9,475.71 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	632,241 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:磐田駅から バス15分 徒歩10分					

◆第1段階 **B2**    品質 1.78点    供給・財務 1.80点

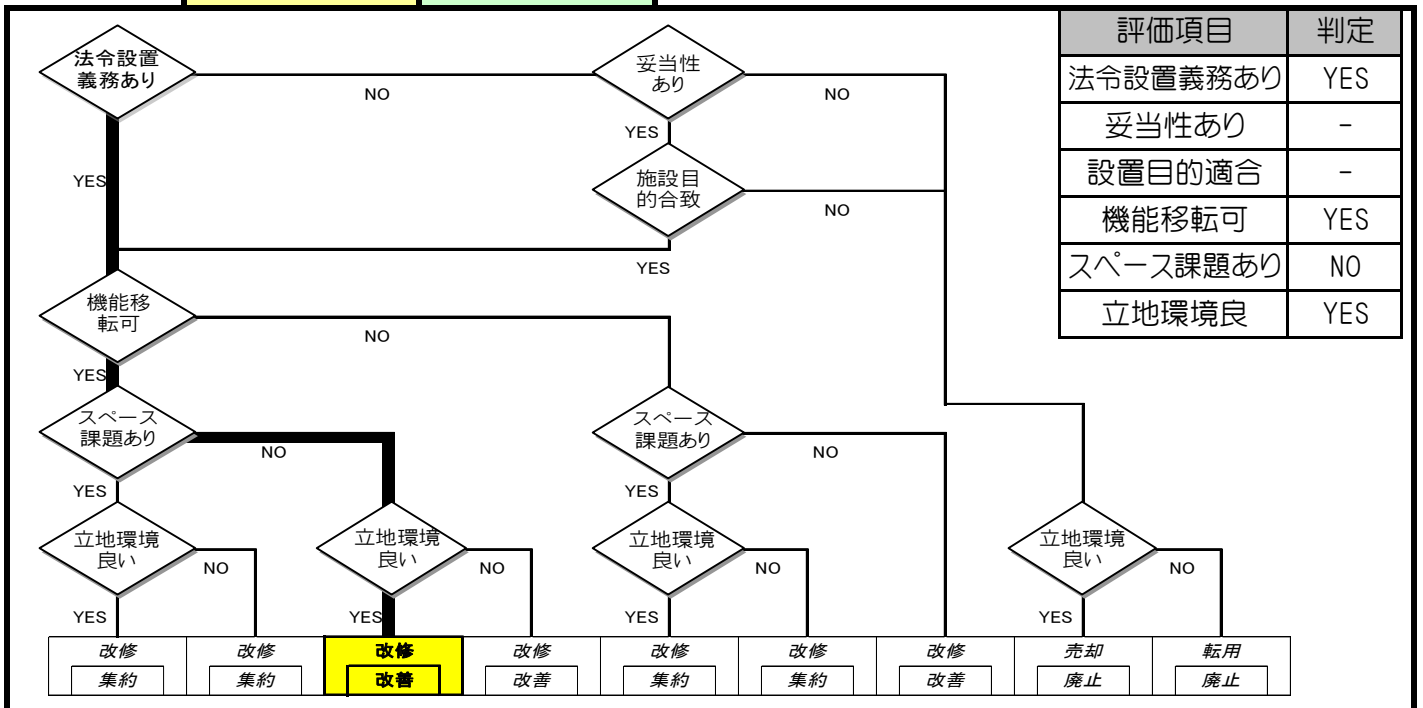
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	32.6年	2.14点
品質	建築劣化度	屋上防水	1988.4年 1.23点
		外壁	1991.5年 1.47点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1983.4年 1.14点
		受変電設備	1991.5年 1.47点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.75点
品質	エネルギー/面積	0.77GJ (43.90)	1.00点
供給	面積/人数	56.07m <sup>2</sup> (44.70)	2.00点
供給	生徒充足率	70.42%	1.00点
供給	入学試験倍率	0.5倍	1.00点
財務	コスト/人	363,953円 (48.08)	2.00点
財務	コスト/面積	2,420円 (43.43)	3.00点

○グラフ表示



◆第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 改善**



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,494	百万円	維持管理費 B(※2)	123	百万円
	使用年数 A(※1)	32.6	年	小計	1,617	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	305	百万円	維持管理費 (※3)	38	百万円
	大規模改修費	1,367	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,709	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	305	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,050	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,413	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	大学4年生化の構想がある。
現在の利用状況	校舎、男子寮、女子寮、体育館、研究棟、実習施設など常時使用している。
これまでの保全の状況	H14に男子寮耐震補強工事、H21年に事務室、教室棟耐震補強工事など
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面については、教育施設として農林業の後継者を養成する責務がある一方で、施設面においては築36年が経過し老朽化が深刻化しているため改修をする必要があり、二次分析の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

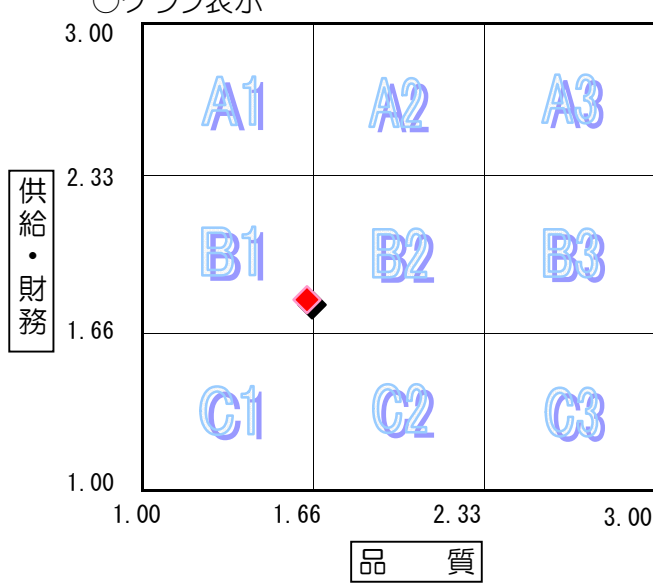
基本情報	施設番号	265107011001	施設名称	農林技術研究所		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所		
	用途	研究施設		設置年	1980	
	施設目的	農作物及び林業の改良発達を図るための、試験研究及び調査の実施				
	敷地面積	163,538.93 m <sup>2</sup>	延床面積	6,150.78 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	6,193,687 千円	建物台帳価格	517,036 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR磐田駅から バス10分				

◆ 第1段階 B2    品質 1.68点    供給・財務 1.80点

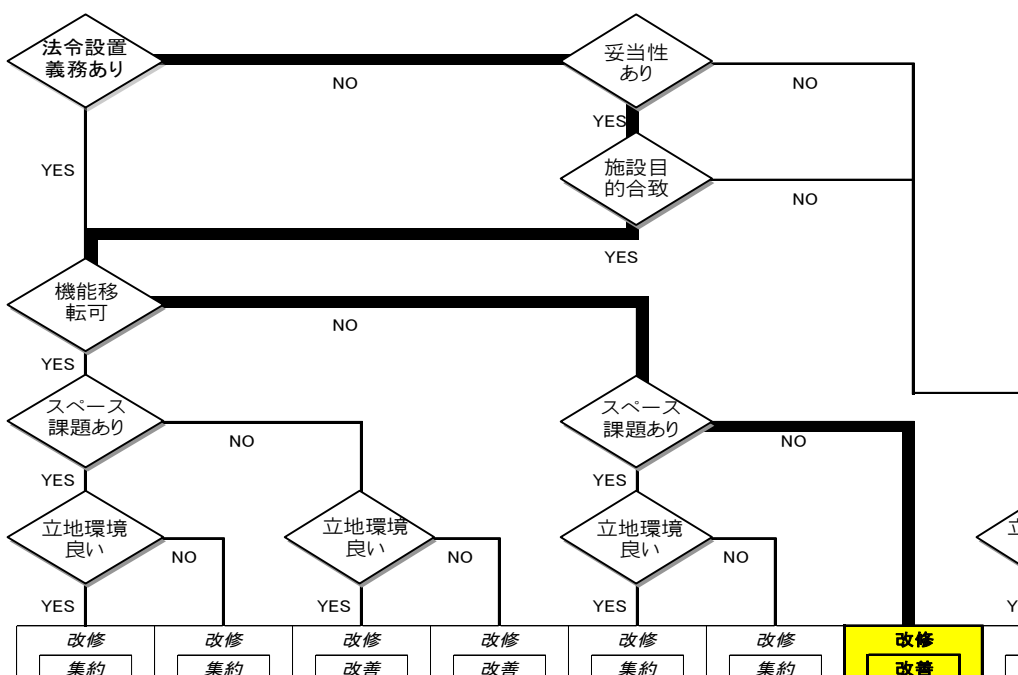
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	35.4年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1982.0年 1.00点
		外壁	1980.6年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1980.6年 1.00点
		受変電設備	1980.6年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.61点
品質	エネルギー/面積	0.74GJ (53.29)	2.00点
供給	面積/人数	23.23m <sup>2</sup> (42.65)	2.00点
財務	コスト/人	1,348,857円 (66.05)	1.00点
財務	コスト/面積	19,298円 (67.59)	1.00点
財務	収入/人	618円 (57.19)	3.00点
財務	支出/人	1,374円 (52.43)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,059	百万円	維持管理費 B(※2)	784	百万円
	使用年数 A(※1)	35.4	年	小計	1,843	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	354	百万円	維持管理費 (※3)	222	百万円
	大規模改修費	2,114	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	2,690	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	354	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,679	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	4,377	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	事務・研究を行う施設として利用(基本的に平日)
これまでの保全の状況	冷暖房用吸収式冷温水機について期待耐用年数超過に伴い早晩更新が必要となる(概算99,000千円)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

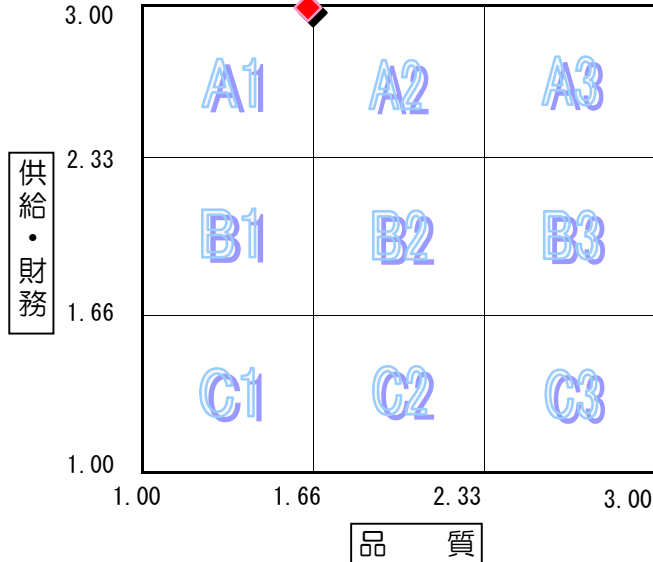
基本情報	施設番号	265107011002	施設名称	農林技術研究所加茂圃場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1980	
	施設目的	農作物及び林業の改良発達を図るための、試験研究及び調査の実施			
	敷地面積	11,178.00 m <sup>2</sup>	延床面積	260.82 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	1,821 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR磐田駅から タクシー15分			

◆ 第1段階 A2    品質 1.68点    供給・財務 3.00点

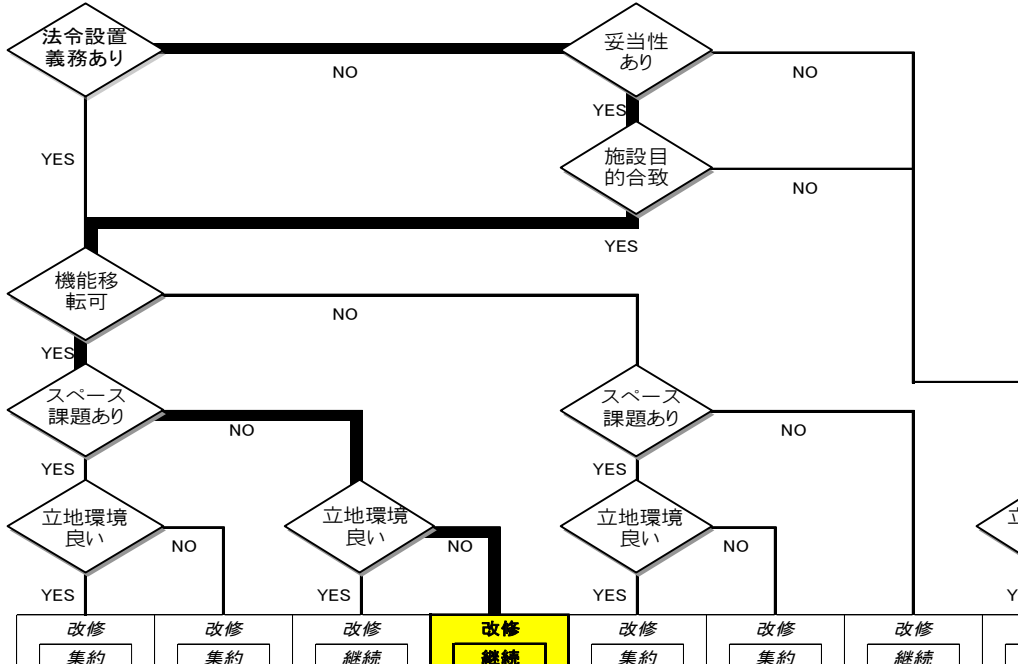
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1980.0年 1.00点
		外壁	1980.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1980.0年 1.00点
		受変電設備	1980.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.01GJ (60.64)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	406円 (40.54)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良い	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	19 百万円	維持管理費 B(※2)	0 百万円
	使用年数 A(※1)	36.0 年	小計	19 百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	15 百万円	維持管理費 (※3)	0 百万円
	大規模改修費	99 百万円	建替え経費	0 百万円
	解体費	0 百万円	小計	114 百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	15 百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	114 百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	186 百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	圃場管理・試験実施等のため、週に1回程度利用
これまでの保全の状況	建物全体で経年劣化が進行(庇の錆びつき、建具の劣化等)
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**



運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設



# 施設アセスメントシート

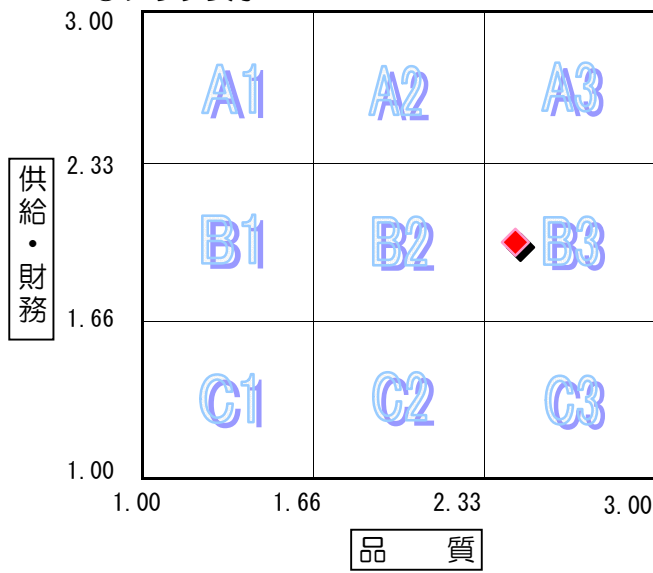
基本情報	施設番号	265107011003	施設名称	農技研伊豆わさび研究拠点		
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所		
	用途	研究施設	設置年	2003		
	施設目的	農作物及び林業の改良発達を図るための、試験研究及び調査の実施				
	敷地面積	4,585.30 m <sup>2</sup>	延床面積	357.72 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	67,207 千円	建物台帳価格	34,038 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆箱根鉄道修善寺駅から バス30分				

◆第1段階 B3    品質 2.55点    供給・財務 2.00点

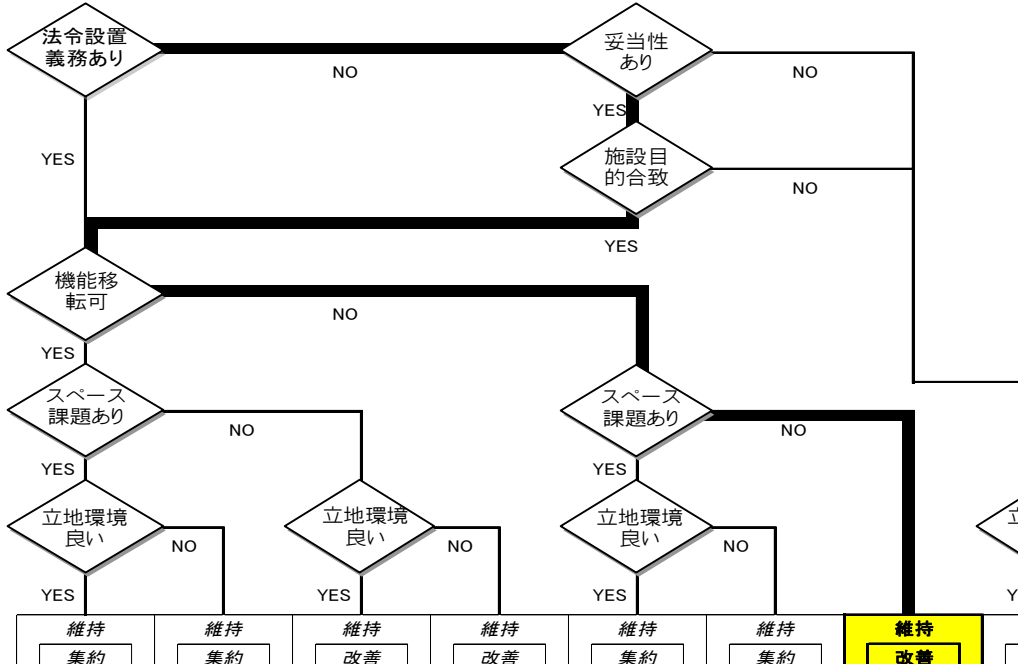
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	13.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2002.0年 2.00点
		外壁	2002.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2002.0年 2.00点
		受変電設備	2002.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.31GJ (47.56)	2.00点
供給	面積/人数	10.00m <sup>2</sup> (40.66)	2.00点
財務	コスト/人	390,562円 (48.57)	2.00点
財務	コスト/面積	6,551円 (49.34)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	48	百万円	維持管理費 B(※2)	5	百万円
	使用年数 A(※1)	13.0	年	小計	53	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	21	百万円	維持管理費 (※3)	4	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	24	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	21	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	156	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	255	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	事務・研究を行う施設として利用(基本的に平日)
これまでの保全の状況	特になし
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価



施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

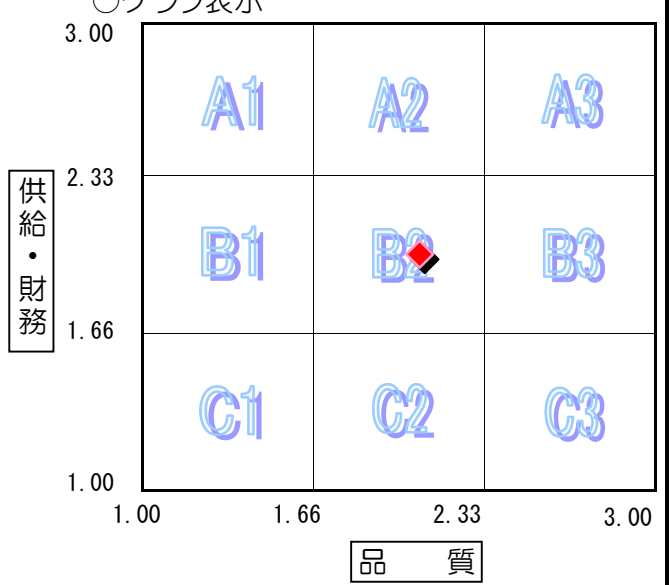
基本情報	施設番号	265107011017	施設名称	農林技術研究所三ヶ野圃場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1996	
	施設目的	農作物及び林業の改良発達を図るための、試験研究及び調査の実施			内部
	敷地面積	41,670.88 m <sup>2</sup>	延床面積	864.00 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	4,762 千円	建物台帳価格	102,880 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR磐田駅から バス25分			

◆ 第1段階 B2    品質 2.15点    供給・財務 2.00点

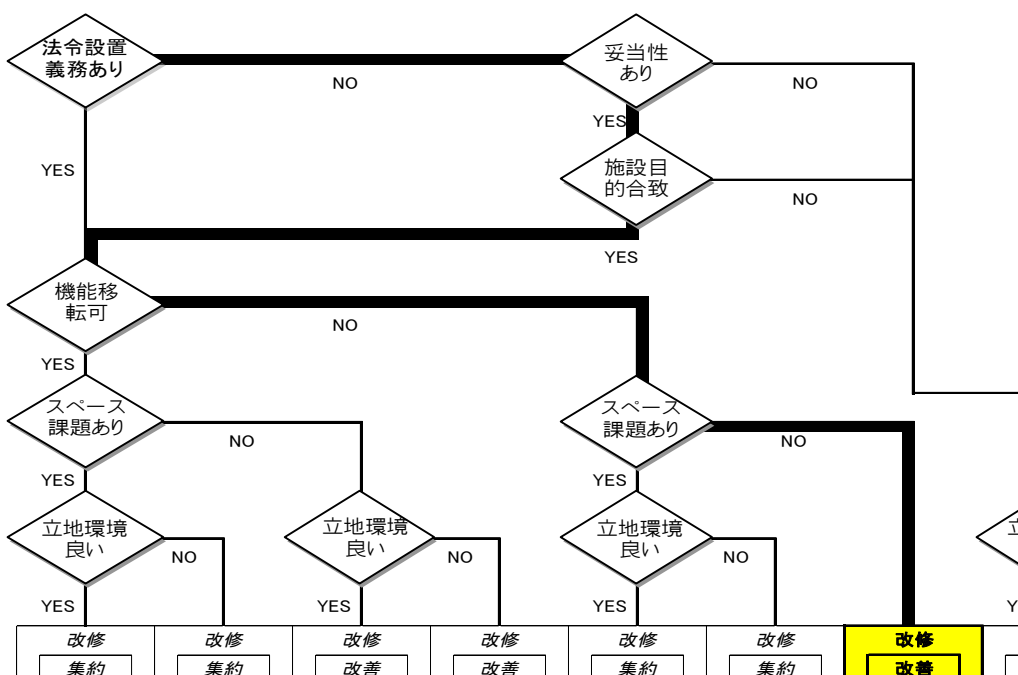
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1995.0年 1.00点
		外壁	1995.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1995.0年 1.00点
		受変電設備	1995.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.53GJ (45.36)	2.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	3,820円 (45.43)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	178	百万円	維持管理費 B(※2)	8	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	186	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	50	百万円	維持管理費 (※3)	4	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	54	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	50	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	376	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	615	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	事務・研究を行う施設として利用(基本的に平日)
これまでの保全の状況	特になし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

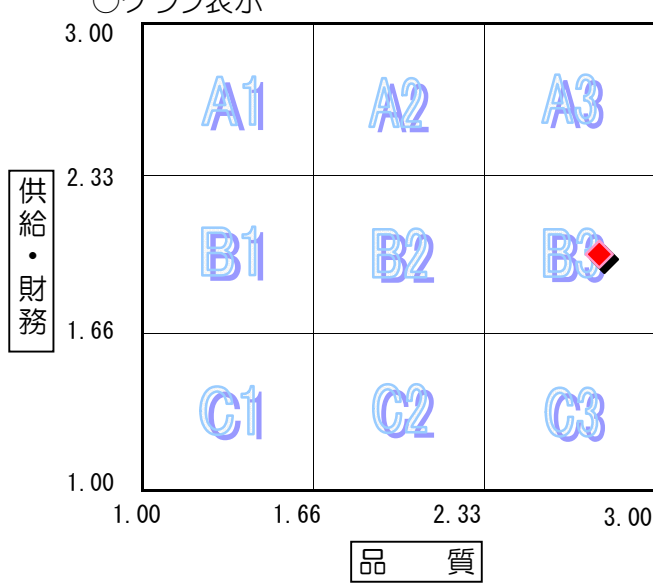
基本情報	施設番号	265107011019	施設名称	農林技術研究所伊豆農業研究センター	外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	2009	
	施設目的	農作物及び林業の改良発達を図るための、試験研究及び調査の実施			内部 
	敷地面積	41,085.09 m <sup>2</sup>	延床面積	547.56 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	37,270 千円	建物台帳価格	74,361 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆急行伊豆稲取駅から バス25分			

◆ 第1段階 B3    品質 2.90点    供給・財務 2.00点

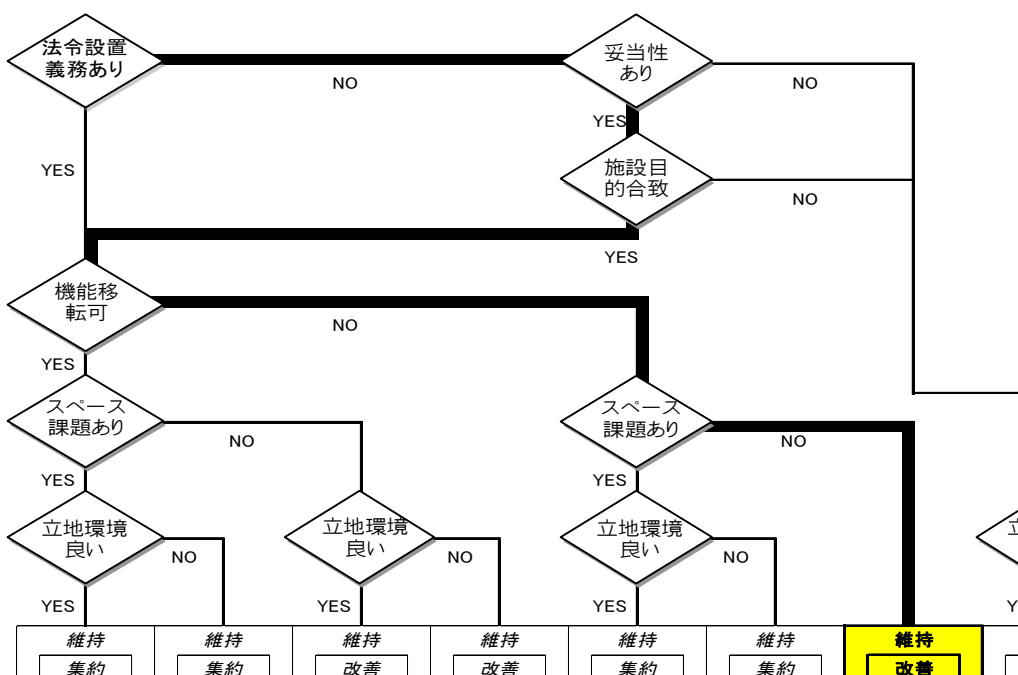
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	7.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2009.0年	3.00点
品質		外壁 2009.0年	3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2009.0年	3.00点
品質		受変電設備 2009.0年	3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	2.76GJ (32.95)	1.00点
供給	面積/人数	10.77m <sup>2</sup> (40.78)	2.00点
財務	コスト/人	326,644円 (47.40)	2.00点
財務	コスト/面積	7,755円 (51.07)	2.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	83	百万円	維持管理費 B(※2)	4	百万円
	使用年数 A(※1)	7.0	年	小計	87	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	32	百万円	維持管理費 (※3)	6	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	37	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	32	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	239	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	390	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	事務・研究を行う施設として利用(基本的に平日)
これまでの保全の状況	特になし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

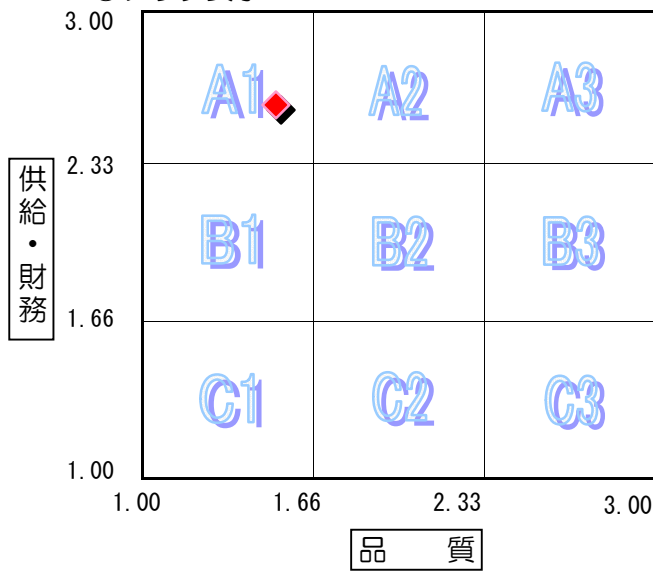
基本情報	施設番号	265109011001	施設名称	茶業研究センター		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所茶業研究センター		
	用途	研究施設		設置年	1988	
	施設目的	計画的な研究推進や茶業生産技術の支援、茶業振興基本計画に基づく新たな商品開発も実施				
	敷地面積	57,982.46 m <sup>2</sup>	延床面積	5,032.56 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	352,811 千円	建物台帳価格	321,985 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A1    品質 1.55点    供給・財務 2.60点

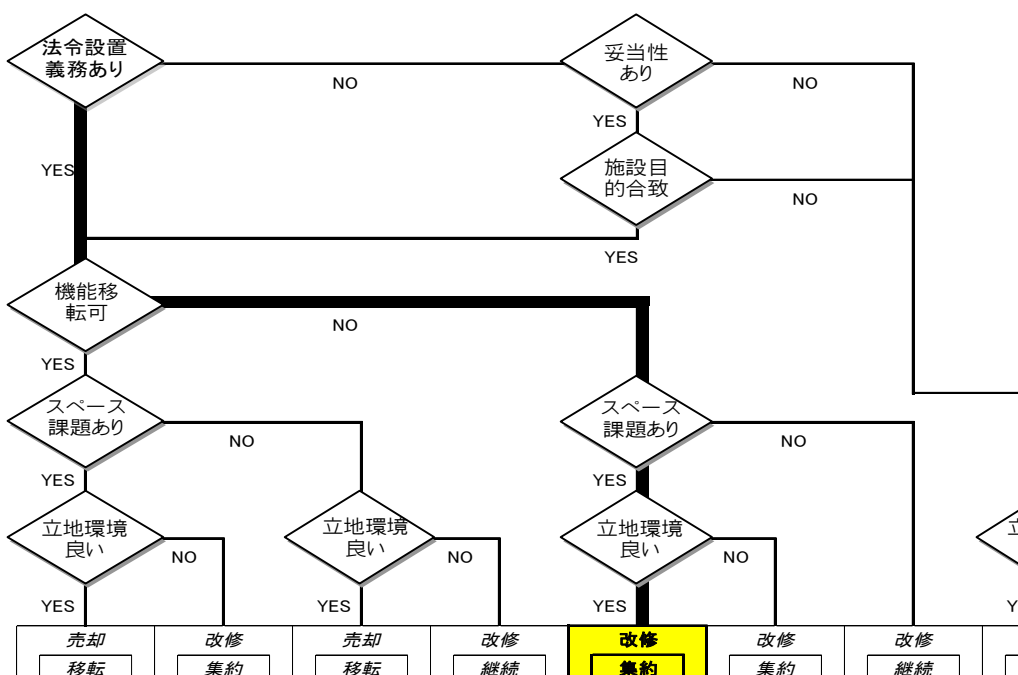
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	35.4年	1.61点
品質	建築劣化度	屋上防水	1983.2年 1.11点
		外壁	1989.2年 1.38点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2006.5年 1.36点
		受変電設備	1991.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.83点
品質	エネルギー/面積	0.78GJ (52.87)	2.00点
供給	面積/人数	81.09m <sup>2</sup> (51.35)	3.00点
財務	コスト/人	473,162円 (50.07)	2.00点
財務	コスト/面積	3,197円 (44.54)	3.00点
財務	収入/人	801円 (63.70)	3.00点
財務	支出/人	1,456円 (52.13)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	674	百万円	維持管理費 B(※2)	112	百万円
	使用年数 A(※1)	35.4	年	小計	786	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	290	百万円	維持管理費 (※3)	32	百万円
	大規模改修費	378	百万円	建替え経費	785	百万円
	解体費	30	百万円	小計	1,515	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	290	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,192	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,581	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	公設試験場のため、利用者は、農業者、農業団体及び農業資材等の企業関係者が主である。(H23 928人、H24 587人、H25 513人、H26 721人、H27 631人 福島原発事故による放射能対策、イベント開催等、年により変動しているが、概ね500～600人程度が年間来場している。)
これまでの保全の状況	・h26営繕企画課劣化診断結果C判定による主な要修繕箇所…寄宿舍旧館外壁補修3,935千円、新製品研究棟屋根外壁補修10,932千円、本館屋上外壁補修6,765千円外・修繕履歴 h23寄宿舍旧館屋根防水工事2,153千円、h24本館玄関庇補修1,103千円、本館南外壁補修2,205千円、h25～h27は 1,000千円未満の補修工事を施工
その他	—

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	集約・改修を継続・改修に変更を希望する。
上を裏付ける根拠(ある場合)	・H19に富士分場14,447㎡及び牧之原実証圃場9,105㎡を廃止し、現在の当所の圃場面積31,000㎡は、試験場の機能を維持するために最低限必要であり、土地の集約は不可。また周囲は、民有茶園及び国道473号線(本線、バイパス)であり、切り売りも困難である。


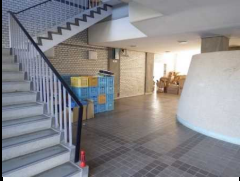
#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。
----	--

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	26511011001	施設名称	果樹研究センター		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所果樹研究センター		
	用途	研究施設		設置年	1969	
	施設目的	常緑果樹を対象とした試験研究				内部 
	敷地面積	69,629.45 m <sup>2</sup>	延床面積	4,496.92 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	296,904 千円	建物台帳価格	135,334 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:清水駅から バス25分 徒歩15分				

## ◆第1段階 A2 品質 1.69点 供給・財務 2.40点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	45.9年	1.12点
品質	建築劣化度	屋上防水	2006.1年 2.67点
		外壁	1990.2年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1996.9年 1.84点
		受変電設備	2008.5年 2.76点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.19点
品質	エネルギー/面積	0.34GJ (57.33)	3.00点
供給	面積/人数	44.12m <sup>2</sup> (45.79)	3.00点
財務	コスト/人	286,558円 (46.67)	2.00点
財務	コスト/面積	1,593円 (42.24)	3.00点
財務	収入/人	357円 (47.94)	2.00点
財務	支出/人	1,122円 (53.32)	2.00点

○グラフ表示

## ◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	294	百万円	維持管理費 B(※2)	85	百万円
	使用年数 A(※1)	45.9	年	小計	379	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	259	百万円	維持管理費 (※3)	19	百万円
	大規模改修費	201	百万円	建替え経費	2,498	百万円
	解体費	95	百万円	小計	3,072	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	259	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,959	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,200	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	果樹研究センター移転整備事業(H26～27整備) 施設No.265111011004と集約済み。
現在の利用状況	未利用(H28年度中に解体)
これまでの保全の状況	—
その他	—

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設:「改修」⇒「売却」が妥当
上を裏付ける根拠(ある場合)	老朽化が著しく利用できないため

#### □総合評価



施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足

現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設

# 施設アセスメントシート

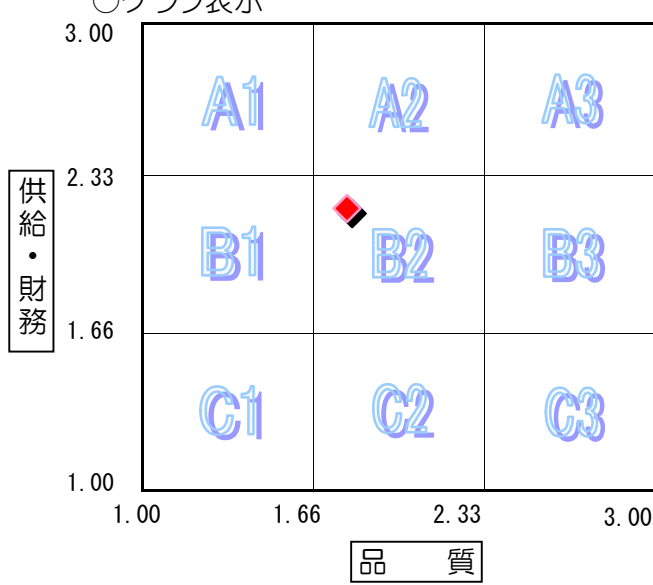
基本情報	施設番号	265111011004	施設名称	果樹研究センター落葉果樹研究拠点	外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所果樹研究センター	
	用途	研究施設	設置年	1987	
	施設目的	落葉果樹を対象とした試験研究			内部 
	敷地面積	57,571.18 m <sup>2</sup>	延床面積	749.46 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	4,852 千円	建物台帳価格	69,217 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス40分 徒歩30分			

◆ 第1段階 B2    品質 1.85点    供給・財務 2.20点

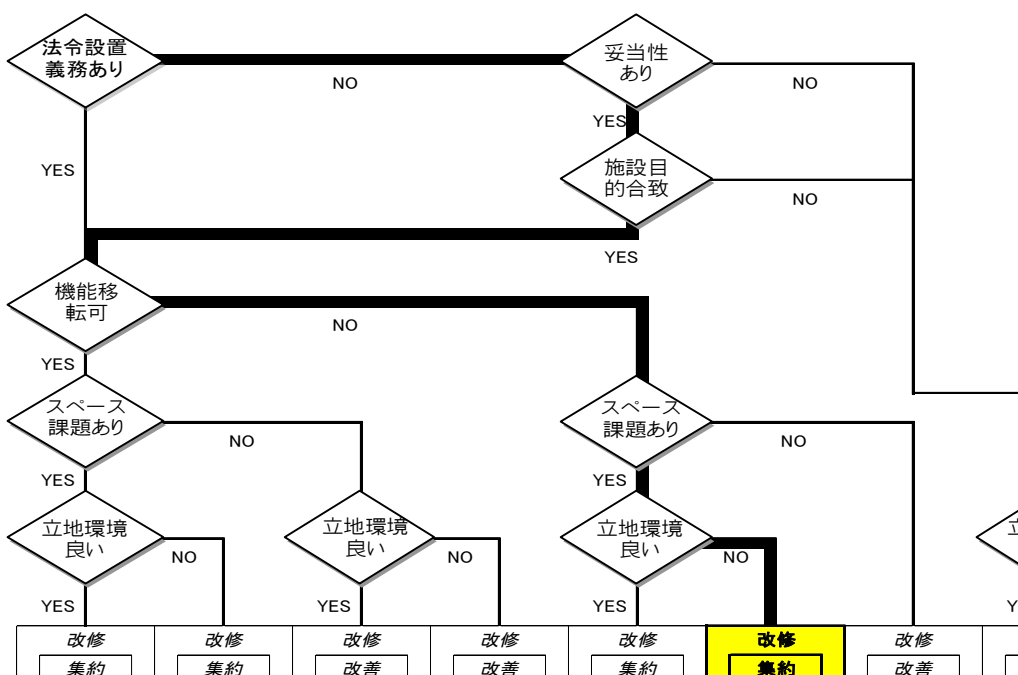
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	33.5年	1.62点
品質	建築劣化度	屋上防水	1987.0年 1.00点
		外壁	1987.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1998.6年 2.24点
		受変電設備	2011.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.87点
品質	エネルギー/面積	0.45GJ (56.23)	3.00点
供給	面積/人数	20.57m <sup>2</sup> (42.25)	2.00点
財務	コスト/人	250,913円 (46.02)	2.00点
財務	コスト/面積	2,344円 (43.32)	3.00点
財務	収入/人	510円 (53.39)	2.00点
財務	支出/人	1,606円 (51.60)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	115 百万円	維持管理費 B(※2)	17 百万円
	使用年数 A(※1)	33.5 年	小計	132 百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	43 百万円	維持管理費 (※3)	5 百万円
	大規模改修費	107 百万円	建替え経費	0 百万円
	解体費	0 百万円	小計	155 百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	43 百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	326 百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	533 百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	果樹研究センター移転整備事業(H26～27整備) 施設No.265111011001と集約済み。
現在の利用状況	未利用
これまでの保全の状況	—
その他	—

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設:「改修」⇒「売却」が妥当
上を裏付ける根拠(ある場合)	清水区茂畑へ全面移転済のため。

総合評価

施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足

現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設